

**「地域福祉に関する徳島市民
アンケート調査」報告書**

平成 21 年 2 月
徳島市

目 次

| | |
|-----------------------------|---|
| 調査の概要 | 1 |
| アンケート報告（調査回答者の属性） | 4 |
| アンケート報告（単純集計・クロス集計抜粋） | 9 |

調査の概要

1. 調査の目的

徳島市地域福祉計画に係る基礎調査のため実施しました。

2. 調査の種類

市民を対象に、アンケート調査を1種類を実施しました。

3. 調査設計

| 調査票 | 調査対象者 | 調査方法 | 調査期間 |
|---------------------|--|------|------------------|
| 地域福祉に関する徳島市民アンケート調査 | 徳島市にお住まいの15歳以上の方で、その中から3,000名の方を無作為に抽出 | 郵送法 | 平成20年10月中旬(約2週間) |

4. 報告書の見方

- (1) 集計結果はすべて、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 複数回答の設問の場合、集計結果の合計が100%・サンプル数を超えることがあります。
- (3) 本文中の質問の選択肢について、長い文は簡略化しているところがあります。
- (4) アンケート報告(クロス集計)における「n」とは、サンプル数を示しています。

5 . 回収結果

配布・回収状況

| | 配布部数 | 回収部数 | 回収率 |
|---------------------|---------|---------|--------|
| 地域福祉に関する徳島市民アンケート調査 | 3,000 部 | 1,204 部 | 40.13% |

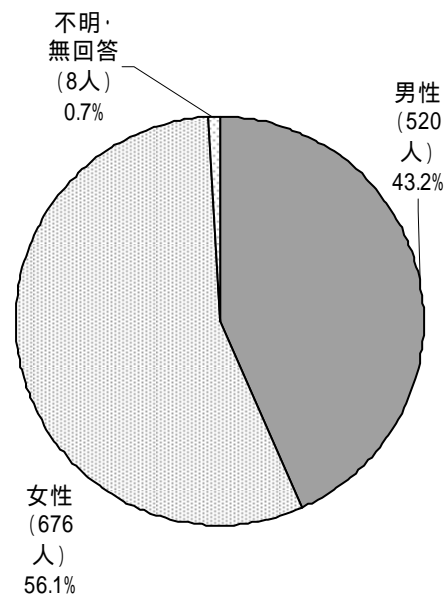
アンケート報告 (調査回答者の属性)

問1 あなたの性別はどちらですか。(どちらかに)

サンプル数:1204

「女性」が多い

性別をみると、「男性」が43.2%、「女性」が56.1%となっており、女性の方がやや高い割合となっています。



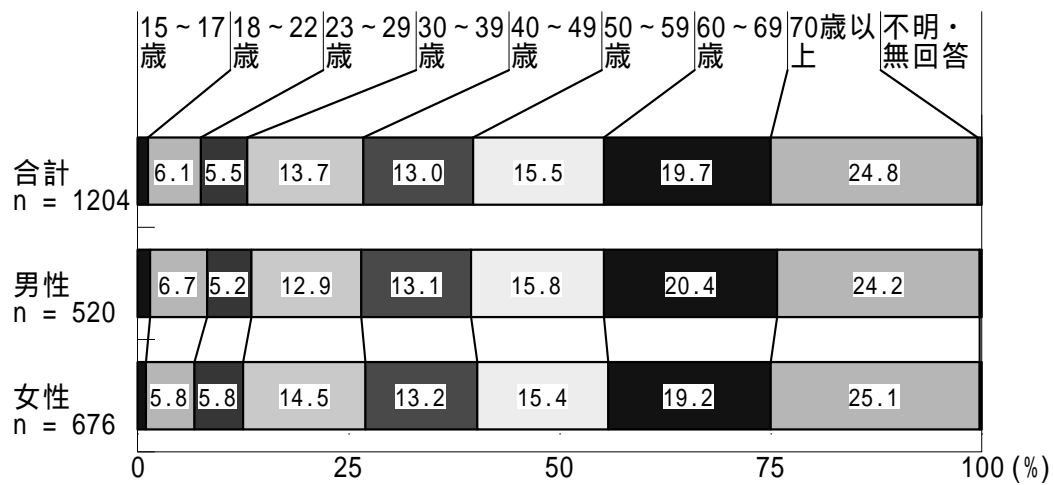
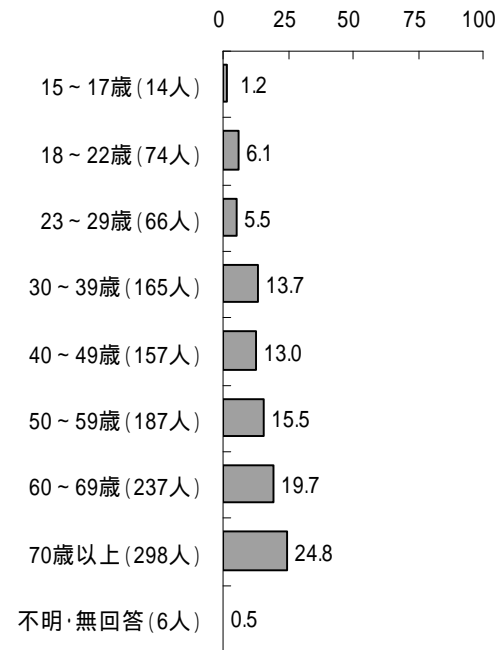
問2 あなたの年齢は、何歳ですか。
(ひとつに)

サンプル数:1204

単位:%

「70歳以上」が多い

年代をみると、「70歳以上」が24.8%で最も高く、次いで「60～69歳」が19.7%、「50～59歳」が15.5%となっています。



3 問2 年齢 × 2 問1 性別

問3 あなたの主な職業は何ですか。
(ひとつに)

問4 あなたが住んでいる地区は次のどれですか。(ひとつに)

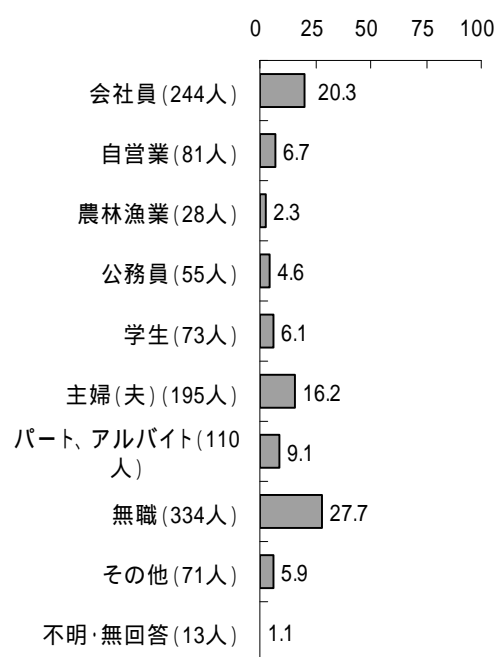
「無職」が多い

「八万」が多い

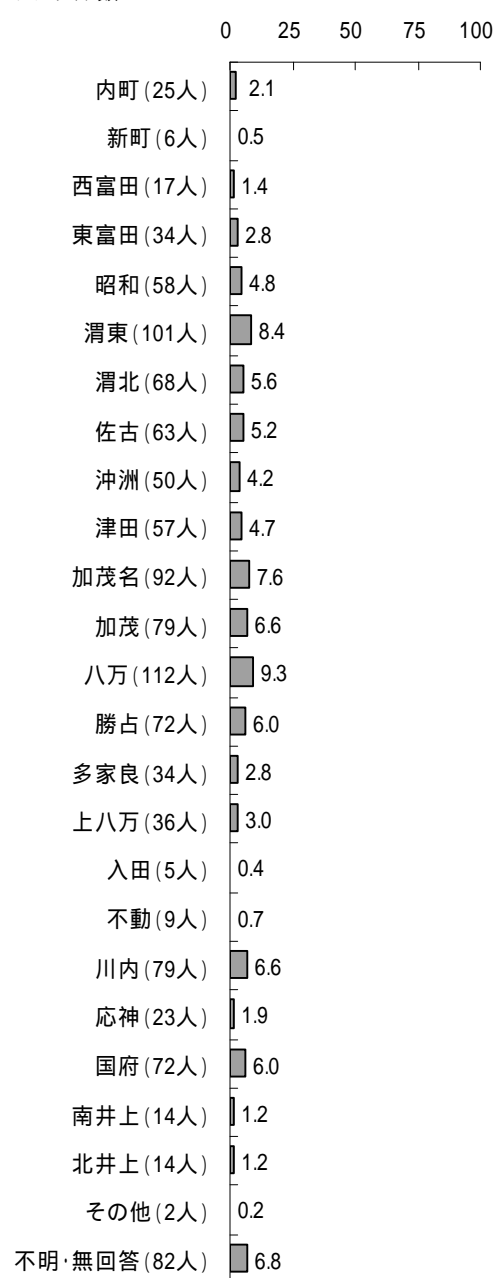
主な職業をみると、「無職」が27.7%で最も高く、次いで「会社員」が20.3%、「主婦(夫)」が16.2%となっています。

居住地についてみると、「八万」地区が9.3%で最も高く、次いで「渭東」地区が8.4%、「加茂名」地区が7.6%となっています。

サンプル数:1204 単位:%



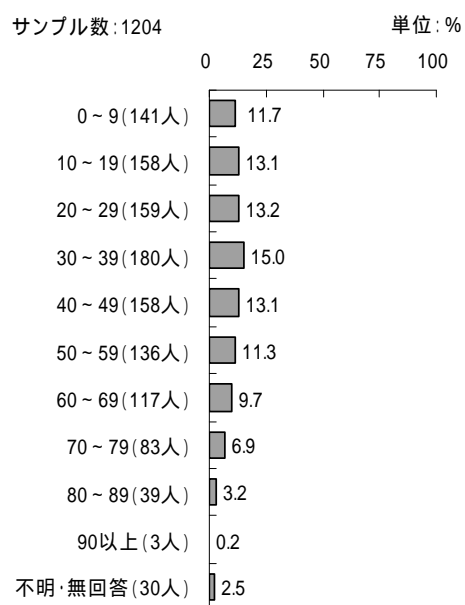
サンプル数:1204 単位:%



問5 徳島市に住んで何年になりますか。(数字をご記入下さい)

「30～39」年が多い

居住年数を見ると、「30～39」年が15.0%で最も高く、次いで「20～29」年が13.2%、「40～49」年「10～19」年が13.1%となっています。



アンケート報告
(単純集計・クロス集計抜粋)

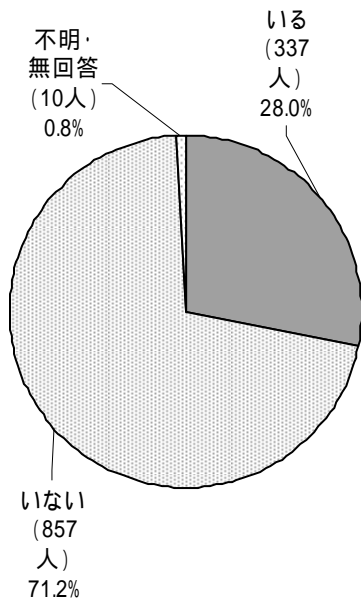
問6 家族に介護や保護が必要な方がいますか。(どちらかに)

「いない」が多い

現状の傾向

介護者の有無についてたずねたところ、「いない」が71.2%となっています。一方、「いる」と回答された方が28.0%いる状況です。

サンプル数:1204



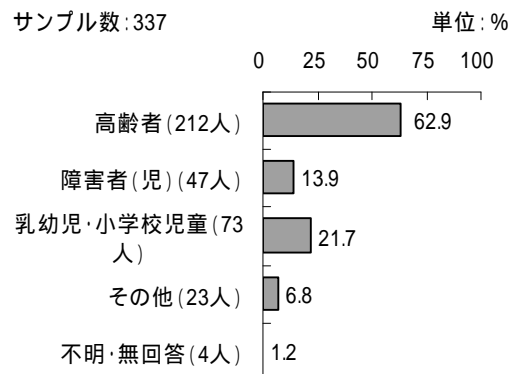
問7 それはどなたですか。(あてはまるものすべてに)

「高齢者」が多い

現状の傾向

介護や保護が必要な方についてたずねたところ、「高齢者」が62.9%で最も多く、次いで「乳幼児・小学校児童」が21.7%、「障害者(児)」が13.9%となっています。

サンプル数:337

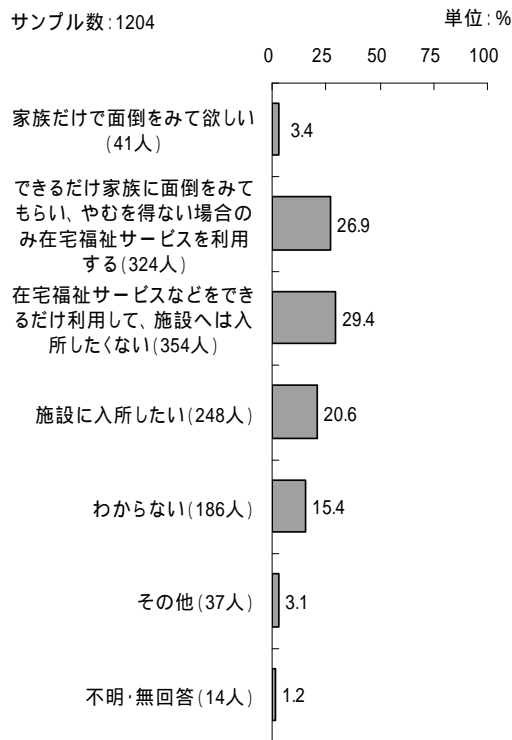


問8 万一、あなた自身が介護を必要とするようになった場合、あなたはどのようにしたいと思いますか。(ひとつに)

「在宅福祉サービスなどをできるだけ利用して、施設へは入所したくない」が多い

現状の傾向

介護が必要となった場合の介護方法についてたずねたところ、「在宅福祉サービスなどをできるだけ利用して、施設へは入所したくない」が29.4%で最も多く、次いで「できるだけ家族に面倒をみてもらい、やむを得ない場合のみ在宅福祉サービスを利用する」が26.9%、「施設に入所したい」が20.6%となっています。現在の地域で暮らしたいと考えている方が多いことが伺えます。

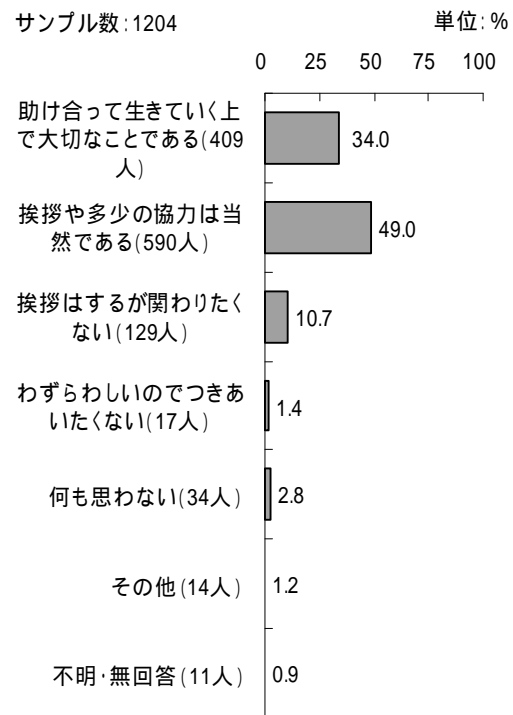


問9 ふだんの近所づきあいをどう感じていますか。(ひとつに)

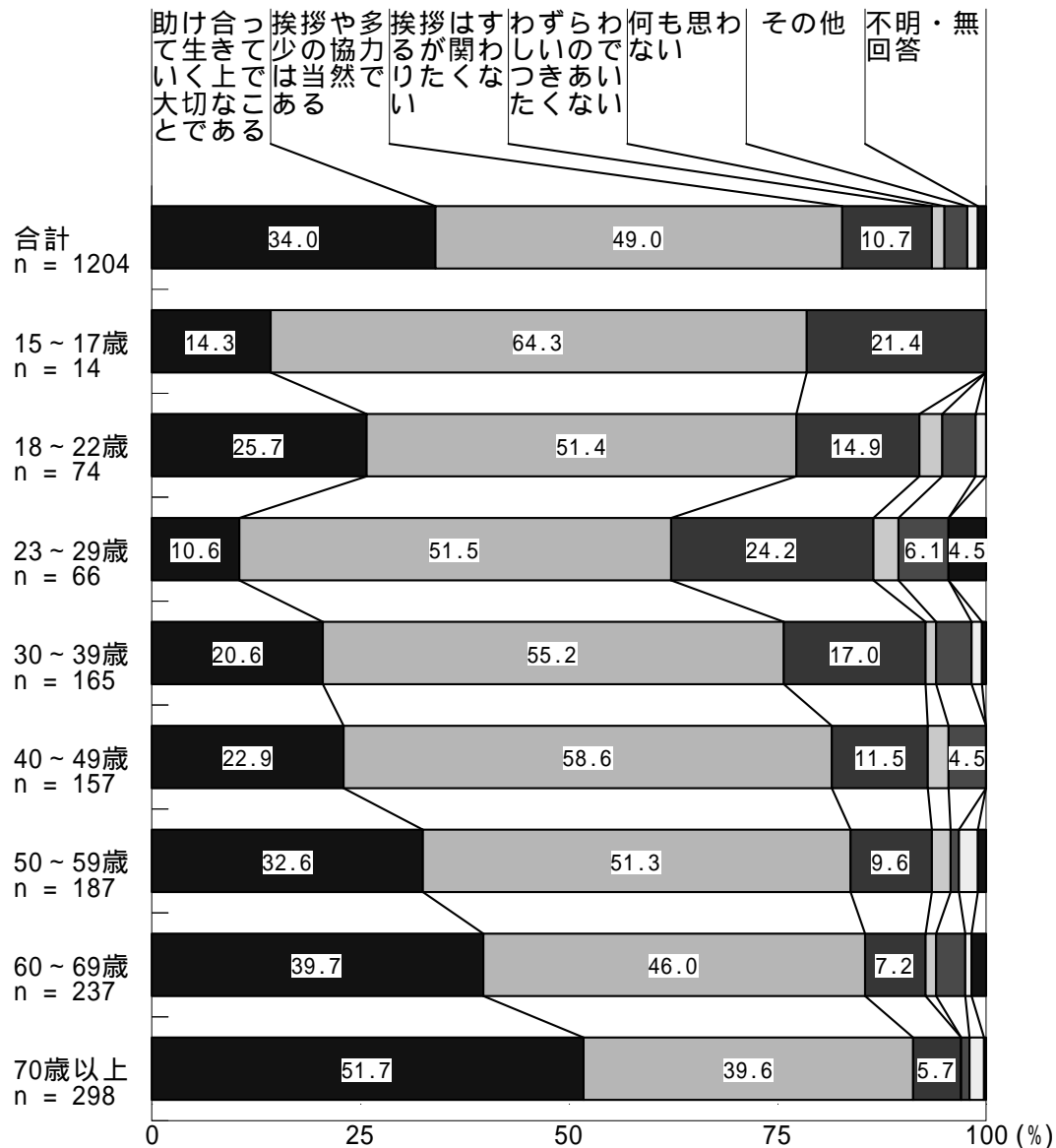
「挨拶や多少の協力は当然である」が多い

現状の傾向

近所づきあいについてたずねたところ、「挨拶や多少の協力は当然である」が49.0%で最も多く、次いで「助け合って生きていく上で大切なことである」が34.0%、「挨拶はするが関わりたくない」が10.7%となっています。近所づきあいに対して肯定的な方が多いことが伺えます。



近所づきあい（年代・地区別）



10 問9 近所づきあい × 3 問2 年齢

年齢が上がるにつれて「助け合って生きていく上で大切なことである」の割合が高い

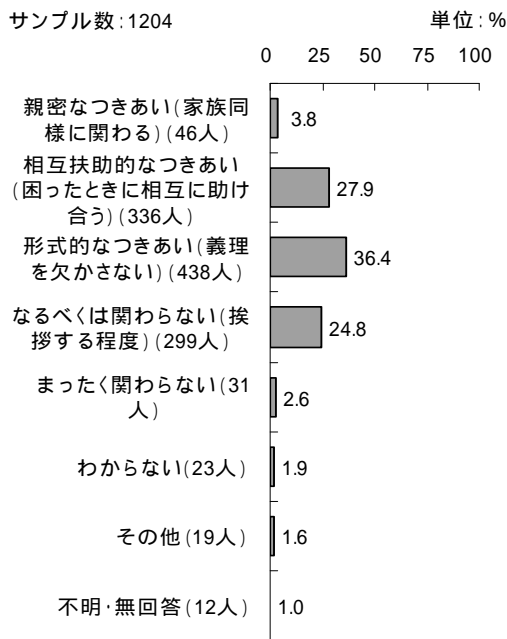
年代別にみると、「助け合って生きていく上で大切なことである」の割合については、「70歳以上」が51.7%で最も高く、年齢が上がるにつれて割合が概ね高くなっています。

問 10 あなたは、近隣の人とどのような関わり方をしていますか。
(ひとつに)

「形式的なつきあい(義理を欠かさない)」が多い

現状の傾向

近隣の人との関わり方についてたずねたところ、「形式的なつきあい(義理を欠かさない)」が 36.4%で最も多く、次いで「相互扶助的なつきあい(困ったときに相互に助け合う)」が 27.9%、「なるべくは関わらない(挨拶する程度)」が 24.8%となっています。

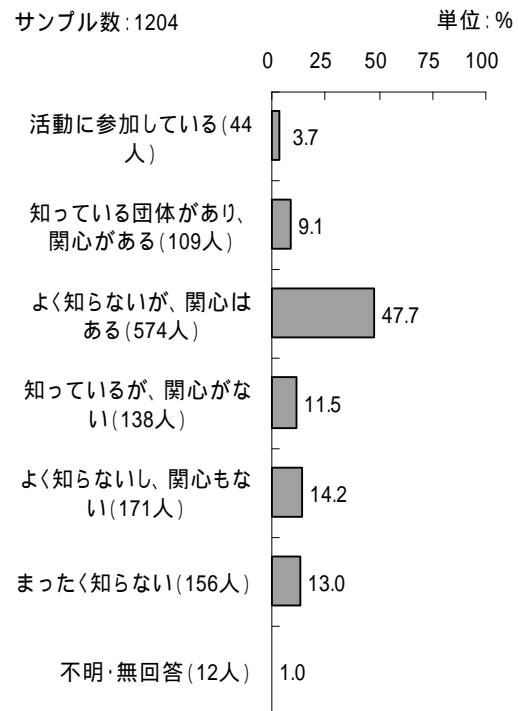


問 11 福祉に関するボランティア団体の存在や活動内容を知っていますか。(ひとつに)

「よく知らないが、関心はある」が多い

現状の傾向

福祉に関するボランティア団体の存在や活動内容についてたずねたところ、「よく知らないが、関心はある」が 47.7%で最も多く、次いで「よく知らないし、関心もない」が 14.2%、「知っているが、関心がない」が 11.5%となっています。ボランティア活動に対する関心の高さが伺えます。



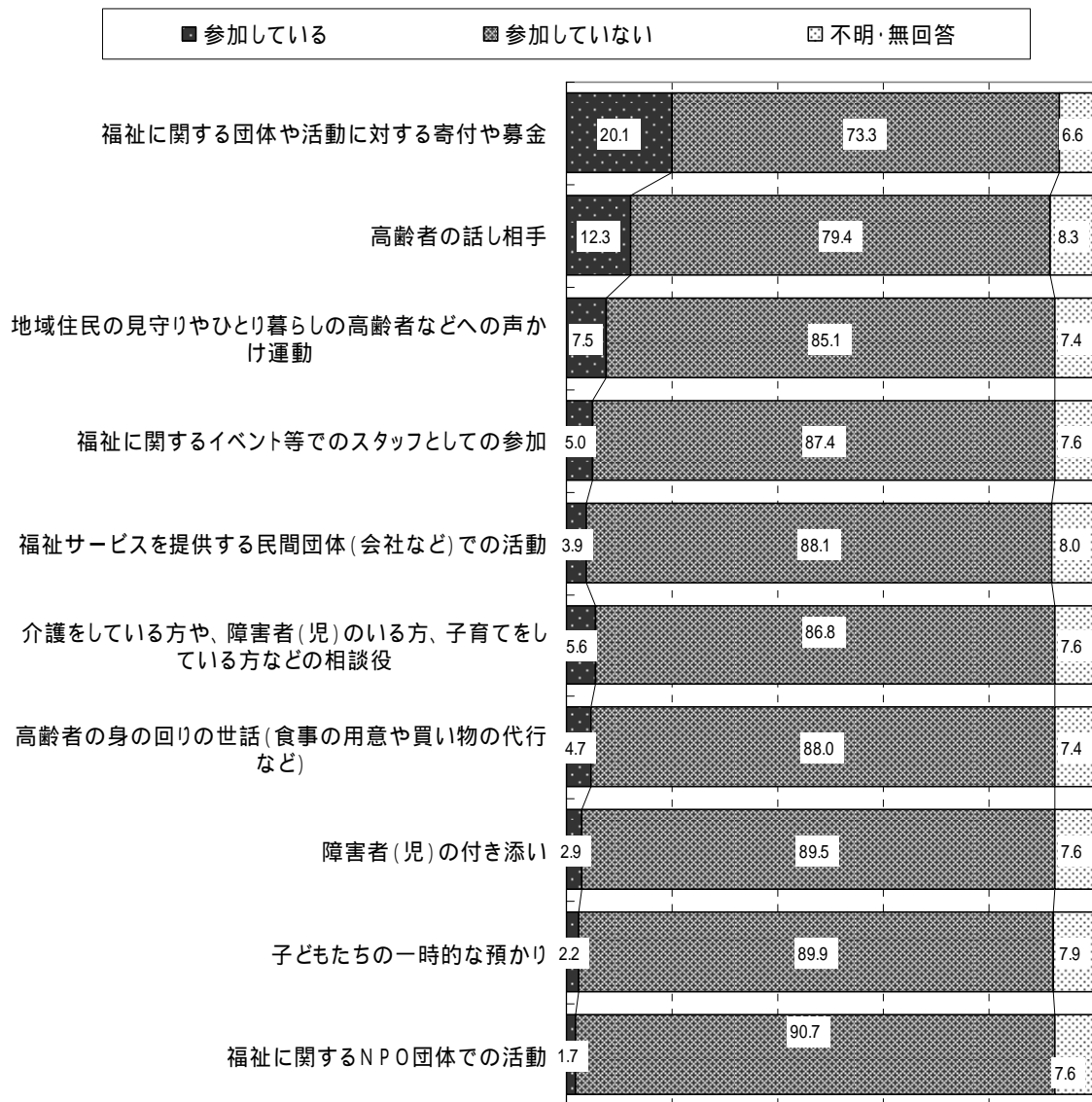
問 12 あなたは、どのような地域での福祉活動に参加していますか。(それぞれに)

参加状況

「福祉に関する団体や活動に対する寄付や募金」が多い

現状の傾向

地域での福祉活動への参加状況をたずねたところ、「福祉に関する団体や活動に対する寄付や募金」が 20.1%で最も多く、次いで「高齢者の話し相手」が 12.3%、「地域住民の見守りやひとり暮らしの高齢者などへの声かけ運動」が 7.5%となっています。概ね、地域の福祉活動には参加していない方が多い状況です。

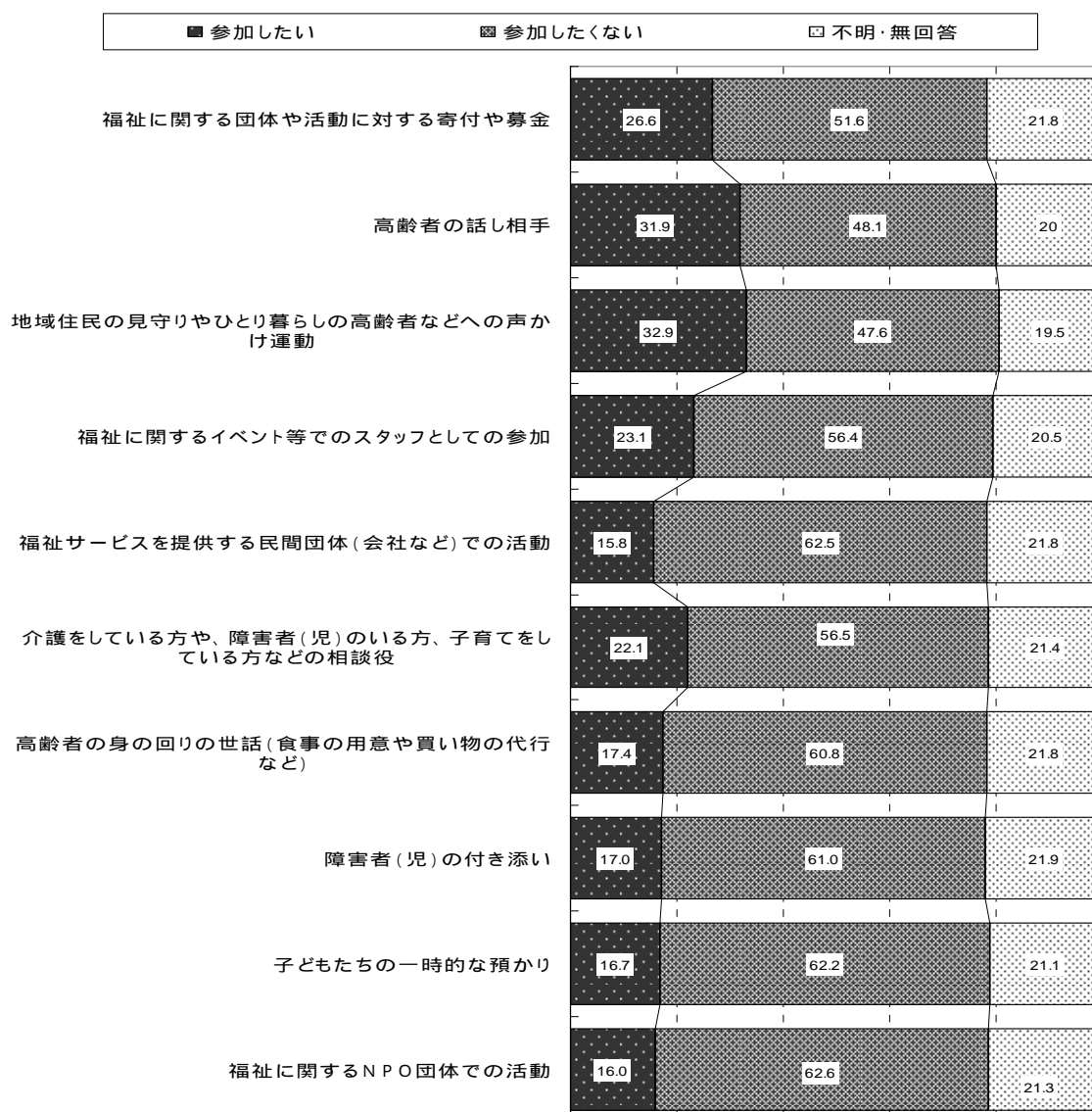


参加希望

「地域住民の見守りやひとり暮らしの高齢者などへの声かけ運動」が多い

現状の傾向

地域での福祉活動への参加希望をたずねたところ、「地域住民の見守りやひとり暮らしの高齢者などへの声かけ運動」に参加したいと答えた人が 32.9%で最も多く、次いで「高齢者の話し相手」が 31.9%、「福祉に関する団体や活動に対する寄付や募金」が 26.6%となっています。一方、「福祉サービスを提供する民間団体（会社など）での活動」に対しては 62.5%の人が参加したくないと答えています。身近に参加できることへの関心が強いことが伺えます。

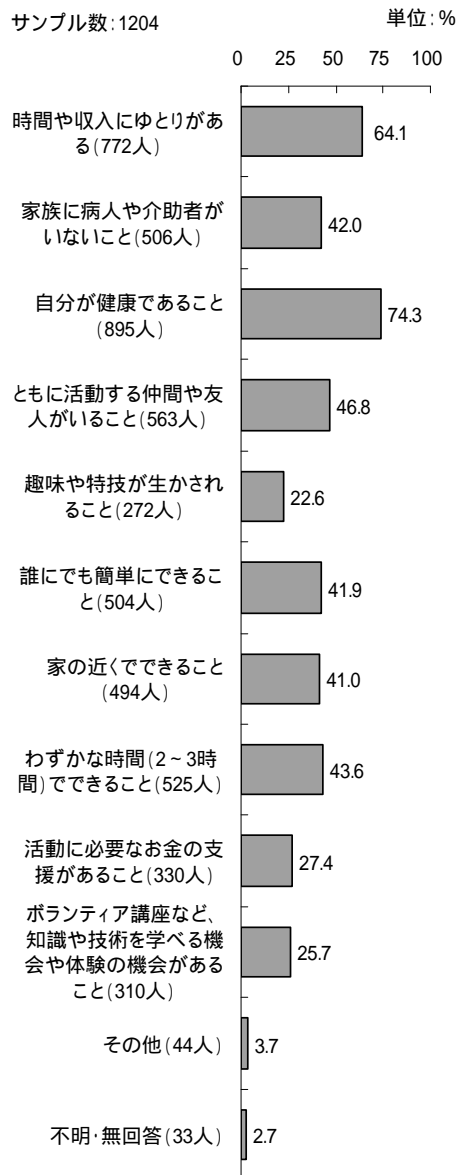


問 13 どのような条件が整えば、地域での福祉活動に参加しやすくなると思いますか。(あてはまるものすべてに)

「自分が健康であること」が多い

現状の傾向

地域での福祉活動へ参加しやすい条件についてたずねたところ、「自分が健康である」が 74.3%で最も多く、次いで「時間や収入にゆとりがある」が 64.1%、「ともに活動する仲間や友人がいること」が 46.8%となっています。

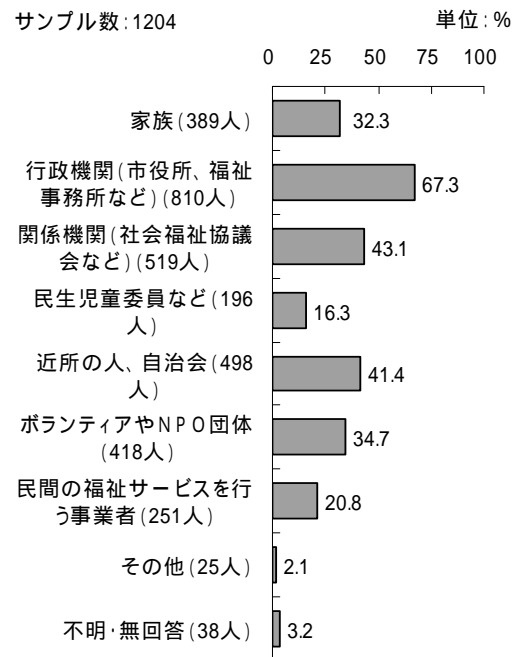


問 14 地域での福祉活動を支えていく中心となるのは誰だと思いますか。(あてはまるものすべてに)

「行政機関(市役所、福祉事務所など)」が多い

現状の傾向

地域での福祉活動を支えていく中心についてたずねたところ、「行政機関(市役所、福祉事務所など)」が 67.3%で最も多く、「関係機関(社会福祉協議会など)」が 43.1%、「近所の人、自治会」が 41.4%となっています。



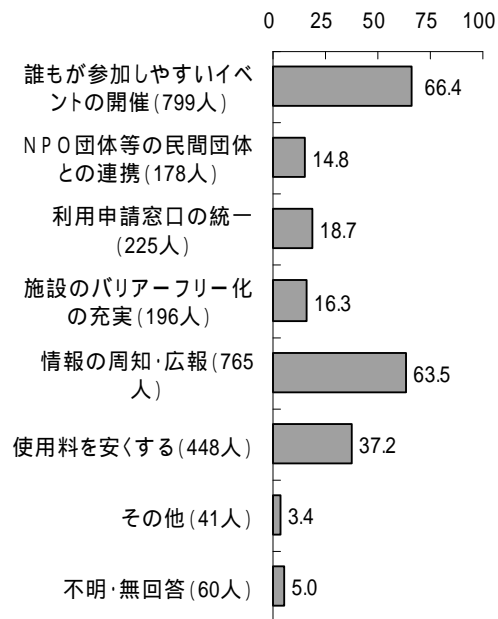
問 15 地域の公共施設（公民館・コミュニティセンター・小学校など）が地域で十分活用されるためには何が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに ）

「誰もが参加しやすいイベントの開催」が多い

現状の傾向

地域の公共施設が地域で十分活用されるために必要なことをたずねたところ、「誰もが参加しやすいイベントの開催」が 66.4%で最も多く、「情報の周知・広報」が 63.5%、「使用料を安くする」が 37.2%となっています。イベント等の開催や情報提供の充実を求めることが多いことが伺えます。

サンプル数：1204 単位：%



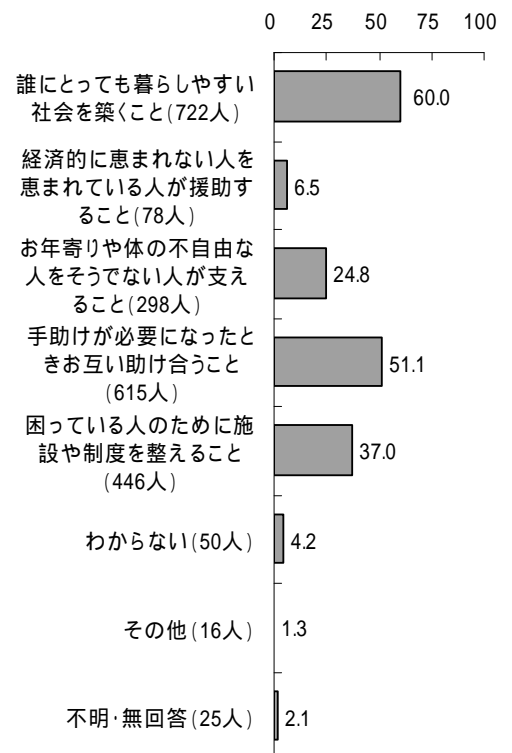
問 16 あなたは、地域福祉という言葉からどのようなイメージを受けますか。（2つに ）

「誰にとっても暮らしやすい社会を築くこと」が多い

現状の傾向

地域福祉という言葉のイメージについてたずねたところ、「誰にとっても暮らしやすい社会を築くこと」が 60.0%で最も多く、次いで、「手助けが必要になったときお互いに助け合うこと」が 51.1%、「困っている人のために施設や制度を整えること」が 37.0%となっています。暮らしやすい社会を築くことやお互い助け合う必要があると考えている方が多いことが伺えます。

サンプル数：1204 単位：%

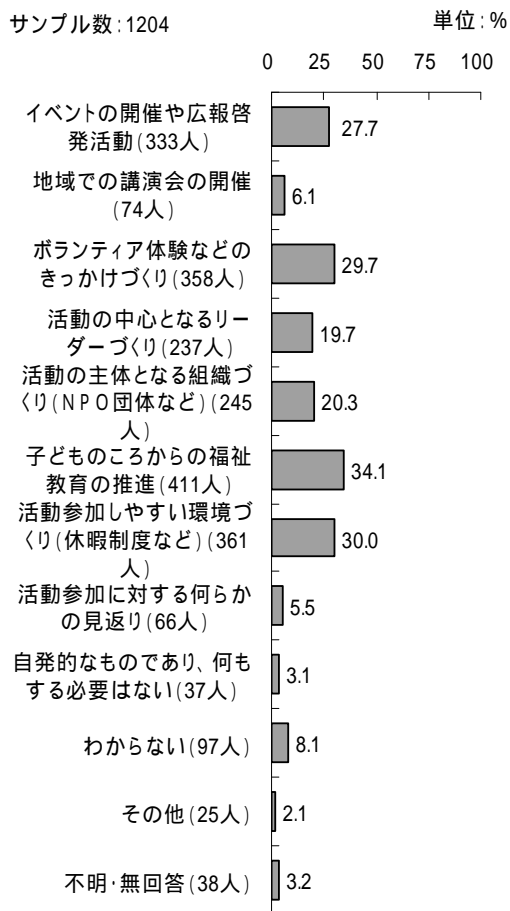


問 17 今後、地域での福祉活動を盛んにするためには、どのようなことが効果的だと思いますか。(2つに)

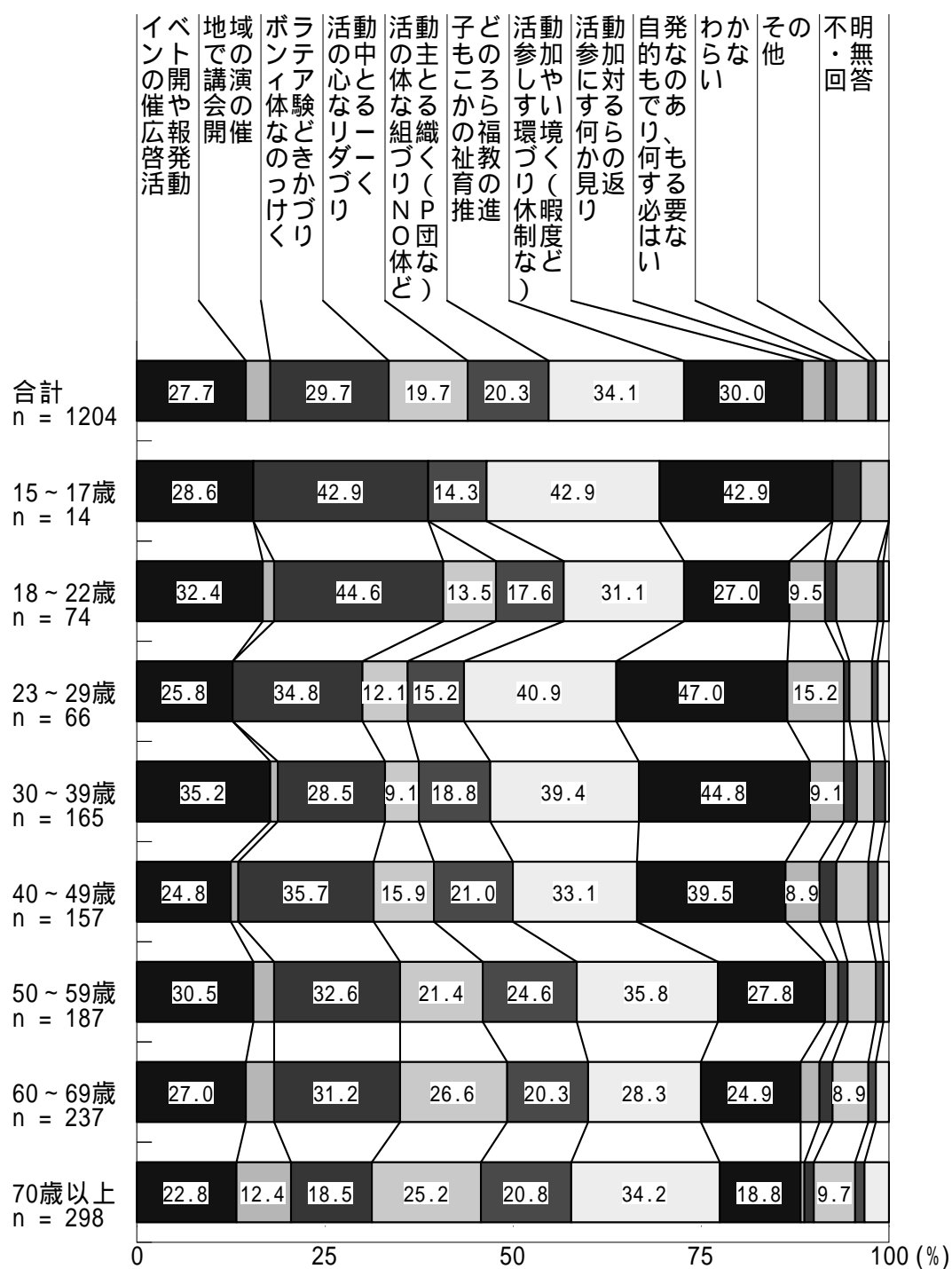
「子どものころからの福祉教育の推進」が多い

現状の傾向

今後、地域での福祉活動を盛んにするために効果的だと思うことについてたずねたところ、「子どものころからの福祉教育の推進」が34.1%で最も多く、「活動参加しやすい環境づくり(休暇制度など)」が30.0%、「ボランティア体験などのきっかけづくり」が29.7%となっています。関係機関と連携した福祉教育の推進や環境づくりの必要が伺えます。



地域活動を活性化する方策（年齢別・地区別）



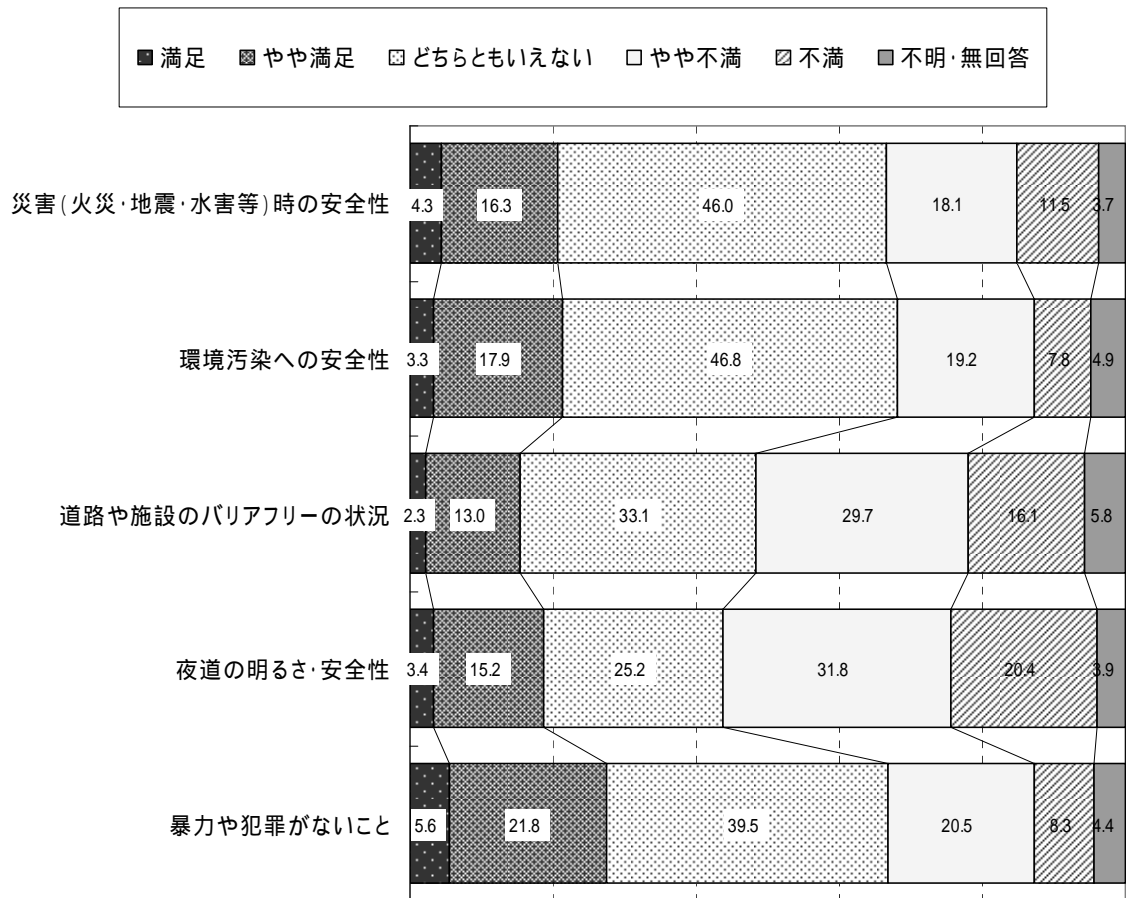
37 問17 地域福祉活動を活性化する方策 × 3 問2 年齢

問 18 徳島市に暮らす上で、安全性においてどの程度満足度を感じていますか。(それぞれひとつに)

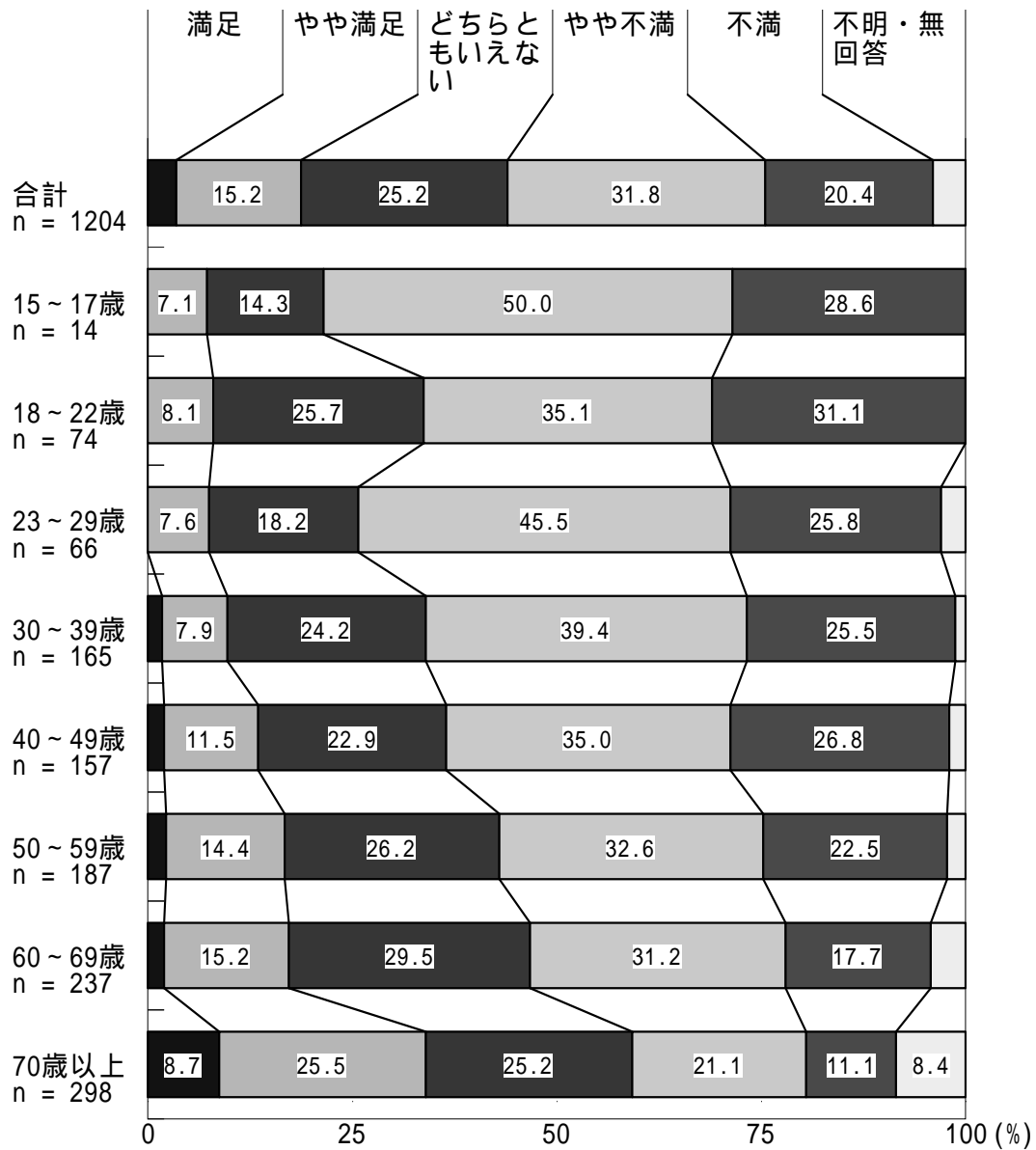
「暴力や犯罪がないこと」が多い

現状の傾向

徳島市に暮らす上で、安全性の満足度についてたずねたところ、「暴力や犯罪がないこと」が(満足、やや満足を合わせ)27.4%で最も多くなっていますが、「夜道の明るさ・安全性」が(やや不満、不満を合わせ)52.2%となっていることから、道路整備等の充実を図る必要が伺えます。



夜道の安全性への満足度（年代・地区別）



41 問18-4 夜道の安全性への満足度 × 3 問2 年齢

年齢が上がるほど「満足度」が高い

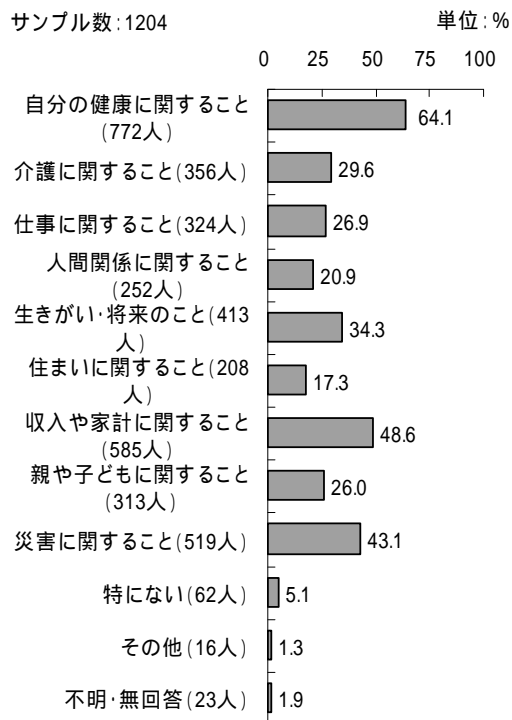
年代別に見ると、年齢が上がるほど「満足」「やや満足」の割合が高く、「やや不満」「不満」の割合は低くなっています。

問 19 あなたは、毎日のくらしの中で、次のどのようなことに不安を感じることがありますか。(あてはまるものすべてに)

「自分の健康に関すること」が多い

現状の傾向

毎日のくらしの中で不安を感じることに ついてたずねたところ、「自分の健康に関すること」が 64.1%で最も多く、「収入や家計に関すること」が 48.6%、「災害に関すること」が 43.1%となっています。健康面や経済面、災害等に関して不安を感じている傾向が伺えます。

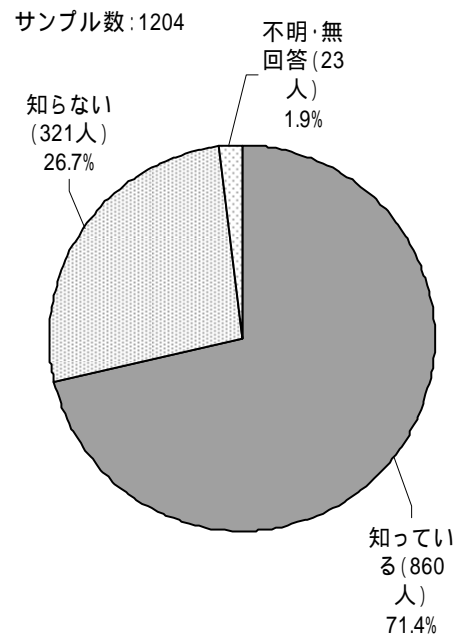


問 20 あなたは住んでいる地域の避難場所について知っていますか。(ひとつに)

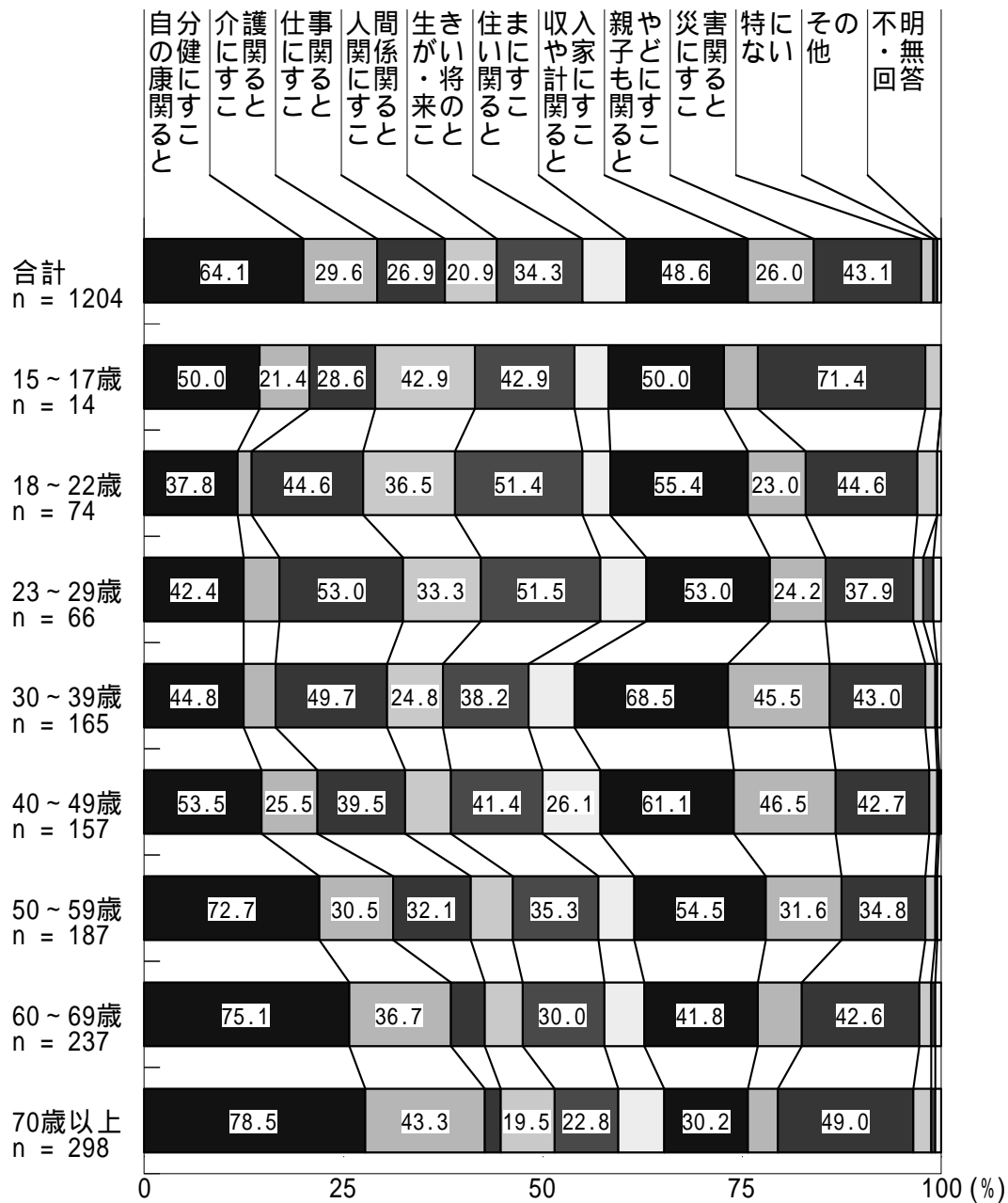
「知っている」が多い

現状の傾向

住んでいる地域の避難場所についてたずねたところ、「知っている」が 71.4%となっている一方で、「知らない」は 26.7%となっています。



日常の不安項目（年代・地区別）



43 問19 日常の不安項目 × 3 問2 年齢

年齢が上がるにつれて「自分の健康に関すること」の割合が高い

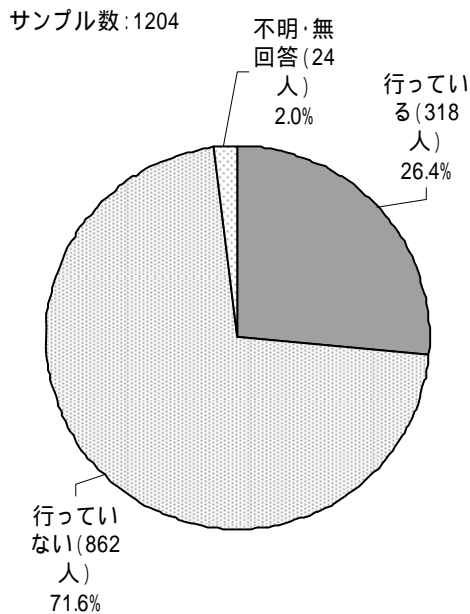
年代別に見ると、「自分の健康に関すること」については、概ね年齢が上がるにつれて割合が高くなり、「70歳以上」では78.5%となっています。また、「30～39歳」「40～49歳」については「収入や家計に関すること」の割合が高い傾向にあります。

問 21 あなたは災害があった場合の備えを行っていますか。(ひとつに)

「行っていない」が多い

現状の傾向

災害があった場合の備えについてたずねたところ、「行っていない」が71.6%となっています。一方で、「行っている」は26.4%となっています。災害対策等の情報提供の充実を図る必要が伺えます。

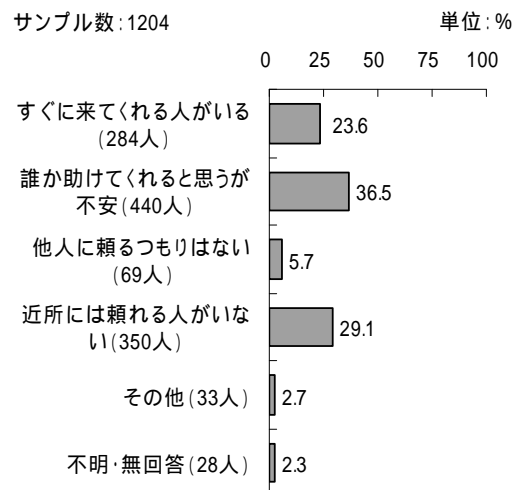


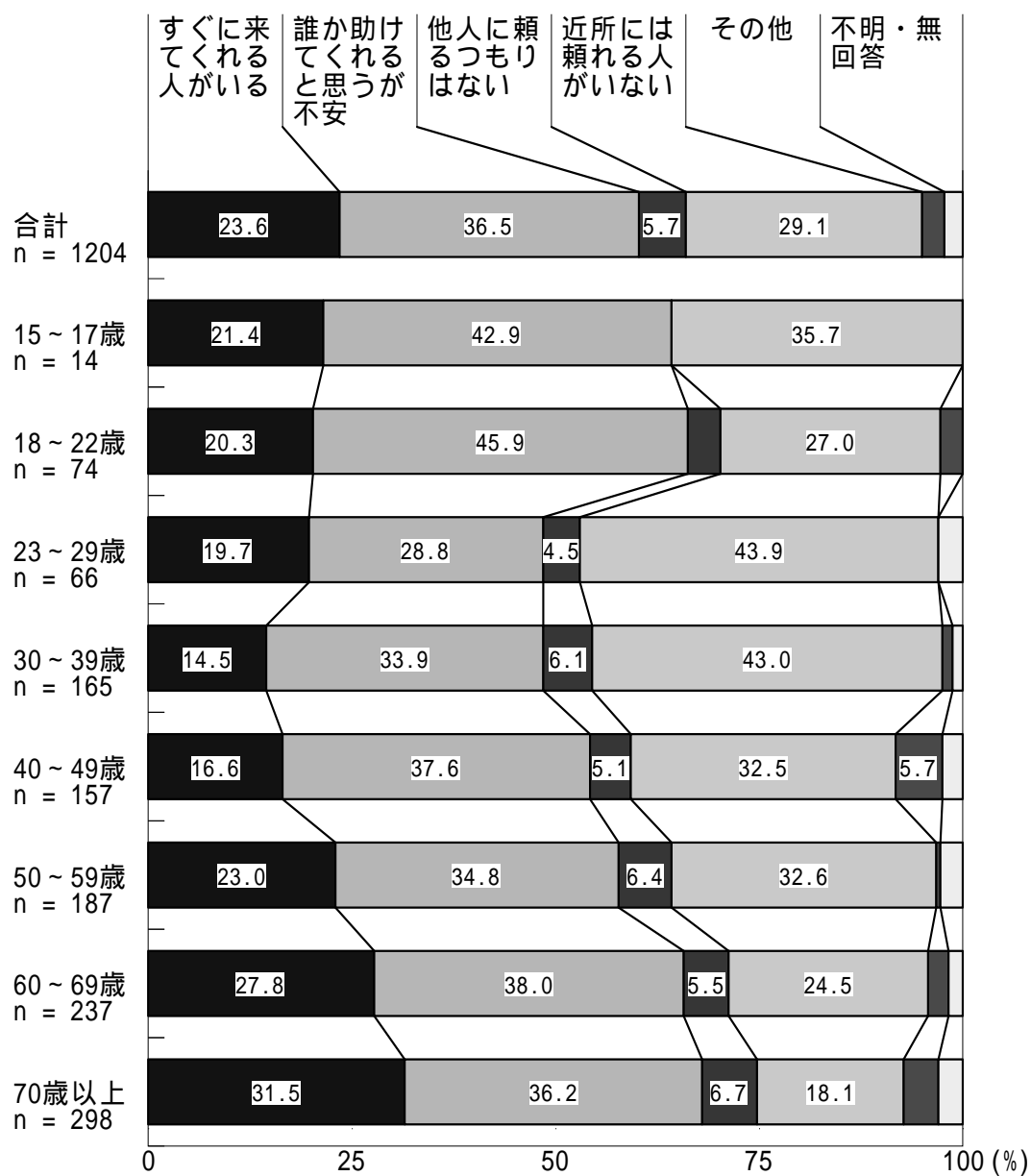
問 22 緊急時に同居の家族以外に近所で頼れる人はいますか。(ひとつに)

「誰か助けしてくれると思うが不安」が多い

現状の傾向

緊急時に同居の家族以外に近所で頼れる人についてたずねたところ、「誰か助けしてくれると思うが不安」が36.5%で最も多く、次いで、「近所には頼れる人がいない」が29.1%、「すぐに来てくれる人がいる」が23.6%となっています。不安を感じている方や頼れる人はいない方が多いことが伺えます。





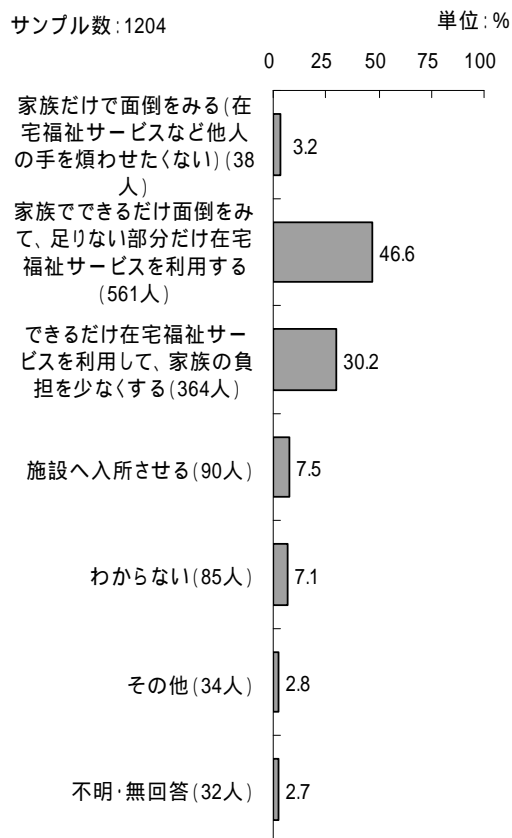
46 問22 緊急時に頼れる人の有無 × 3 問2 年齢

問 23 万一、あなたの家族が介護を必要とするようになった場合、あなたはどのようにしたいと思いますか。(ひとつに)

「家族でできるだけ面倒をみて、足りない部分だけ在宅福祉サービスを利用する」が多い

現状の傾向

家族が介護を必要とするようになった場合についてたずねたところ、「家族でできるだけ面倒をみて、足りない部分だけ在宅福祉サービスを利用する」が 46.6%で最も多く、次いで、「できるだけ在宅福祉サービスを利用して、家族の負担を少なくする」が 30.2%となっています。在宅福祉サービスの充実を図る必要が伺えます。

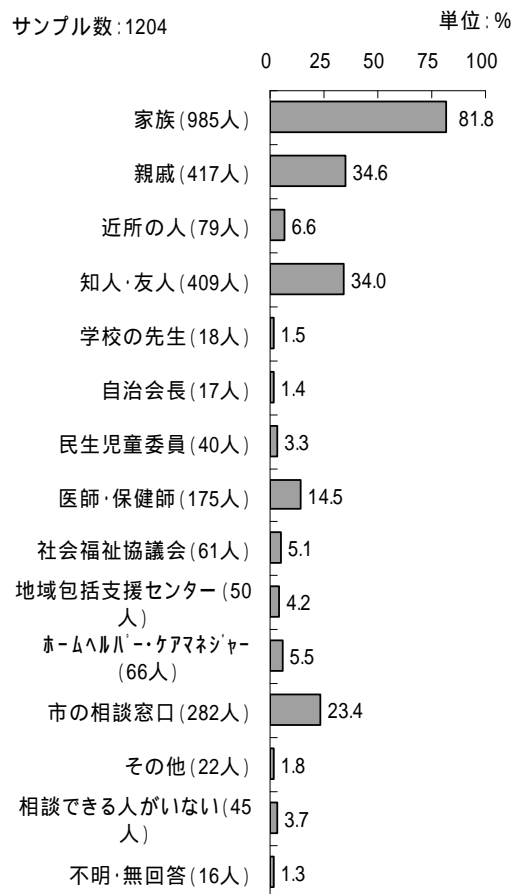


問 24 あなたは生活する上で困ったとき、誰に相談したいですか。(あてはまるものすべてに)

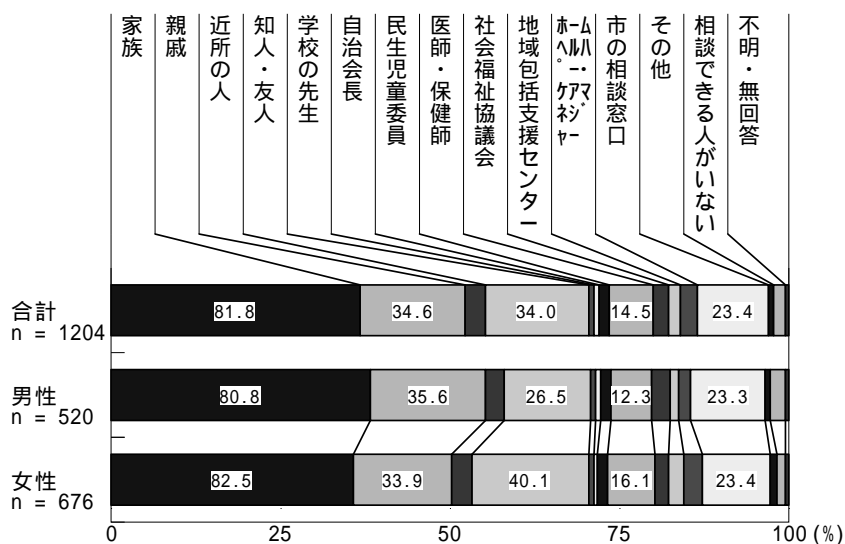
「家族」が多い

現状の傾向

生活する上で困ったときに、誰に相談したいかをたずねたところ、「家族」が 81.8%で最も多く、次いで、「親戚」が 34.6%、「知人・友人」が 34.0%となっています。家族や親戚、知人・友人などの身のまわりの方に相談する方が多い傾向が伺えます。



日常における相談相手（性別・年代・地区別）



問24 相談したい人 × 問1 性別

「女性」の方が「家族」に相談したいと思っている割合がやや高い

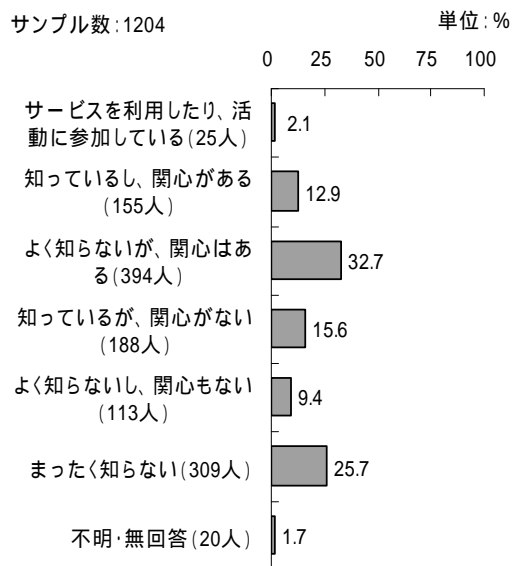
性別でみると、「家族」の割合については、「男性」が80.8%、「女性」が82.5%、また、「友人・知人」の割合については、「男性」が26.5%、「女性」が40.1%と「女性」の方の割合が高くなっています。

問 25 あなたは、徳島市社会福祉協議会という団体があることを知っていますか。(ひとつに)

「よく知らないが、関心はある」が多い

現状の傾向

徳島市社会福祉協議会という団体の認知度についてたずねたところ、「よく知らないが、関心はある」が32.7%で最も多く、次いで、「まったく知らない」が25.7%、「知っているが、関心がない」が15.6%となっています。徳島市社会福祉協議会の広報の充実を図る必要が伺えます。



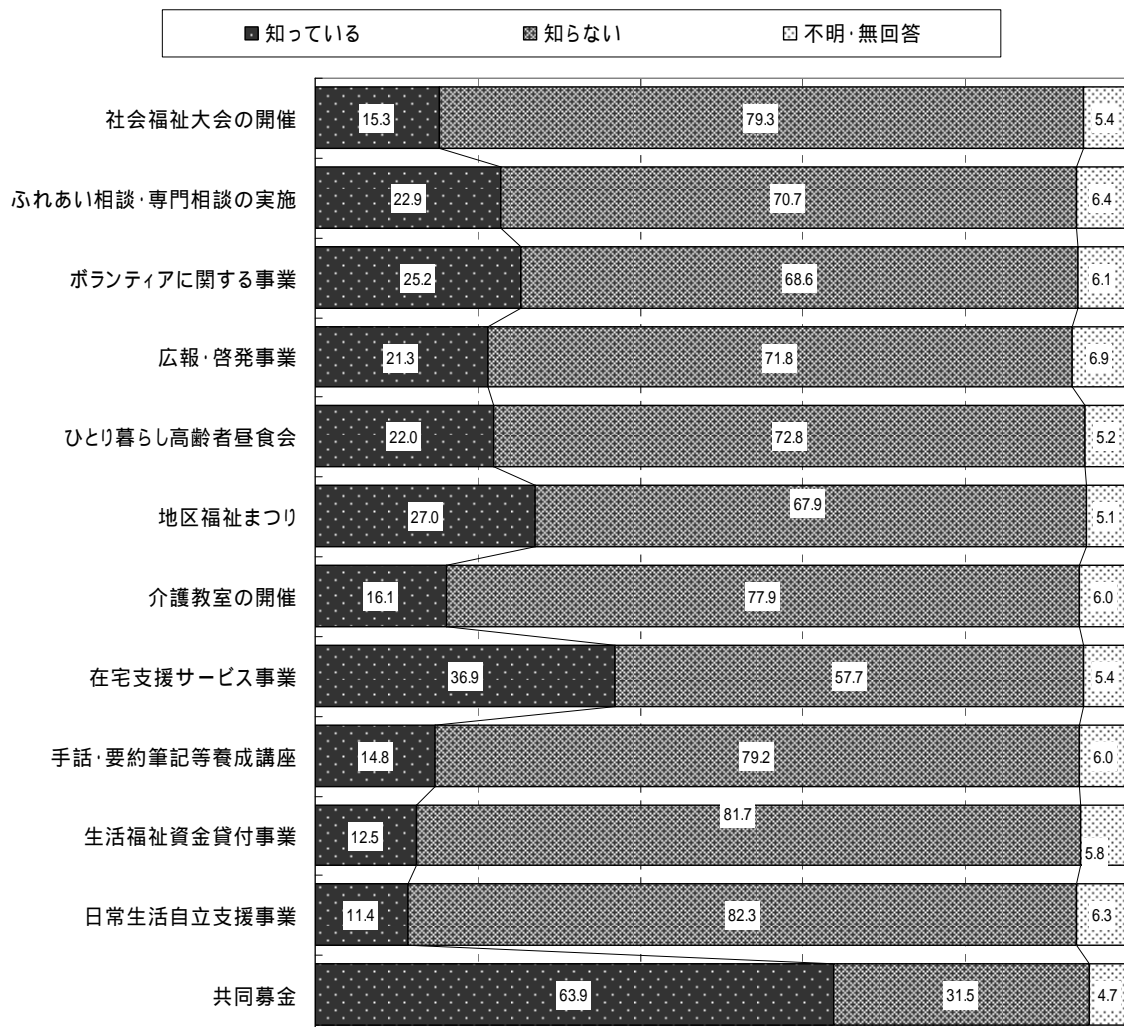
問 26 あなたは、徳島市社会福祉協議会が行っている事業について知っていますか。また、参加若しくは利用した事業がありますか。(それぞれひとつに)

認知度

「共同募金」が多い

現状の傾向

徳島市社会福祉協議会が行っている事業について知っているかたずねたところ、「共同募金」が 63.9%で最も多く、次いで、「在宅支援サービス事業」が 36.9%、「地区福祉まつり」が 27.0%となっていますが、「共同募金」を除いては、「知らない」が多くなっており、各事業についての認知度は低い傾向が伺えます。



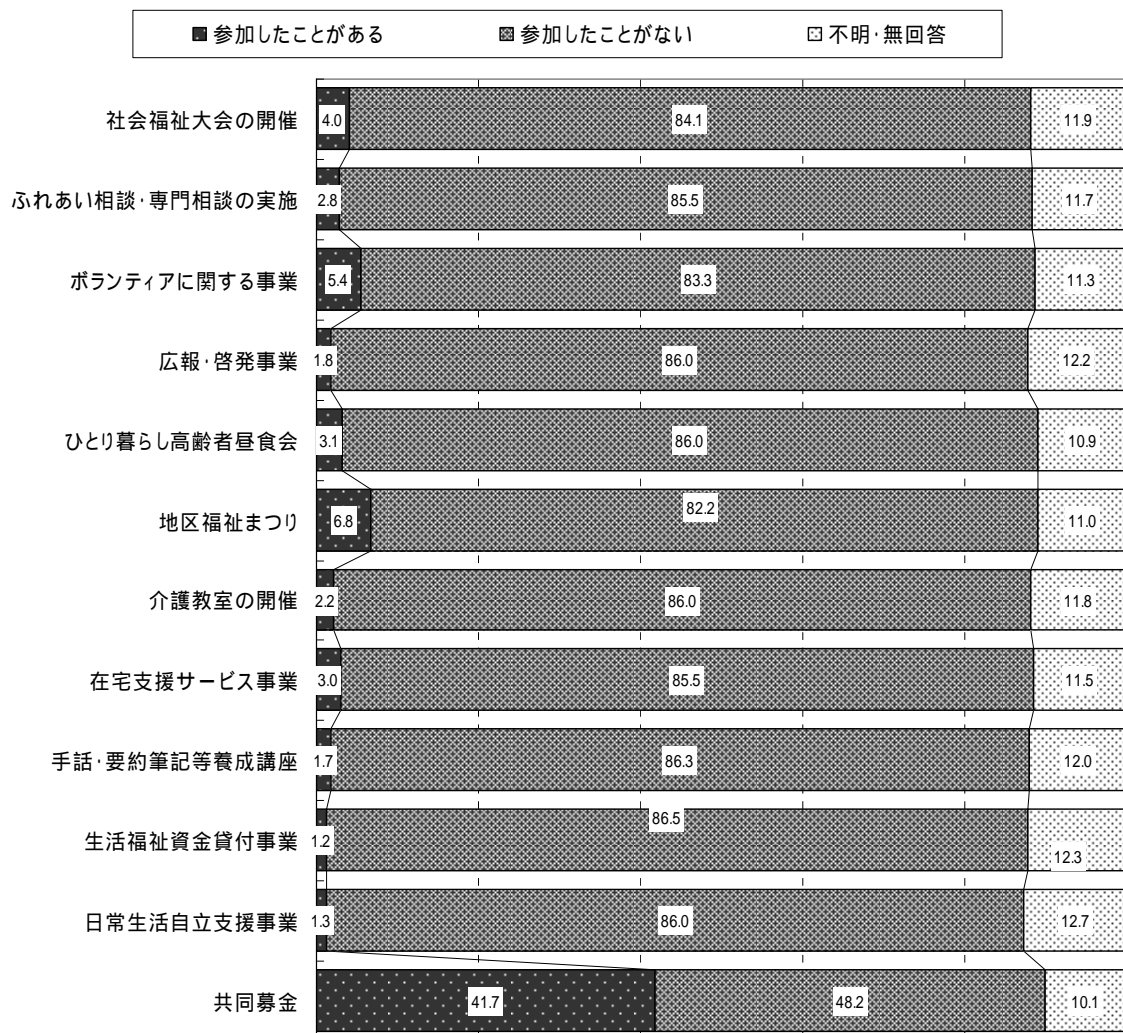
問 26 あなたは、徳島市社会福祉協議会が行っている事業について知っていますか。また、参加若しくは利用した事業がありますか。(それぞれひとつに)

参加状況

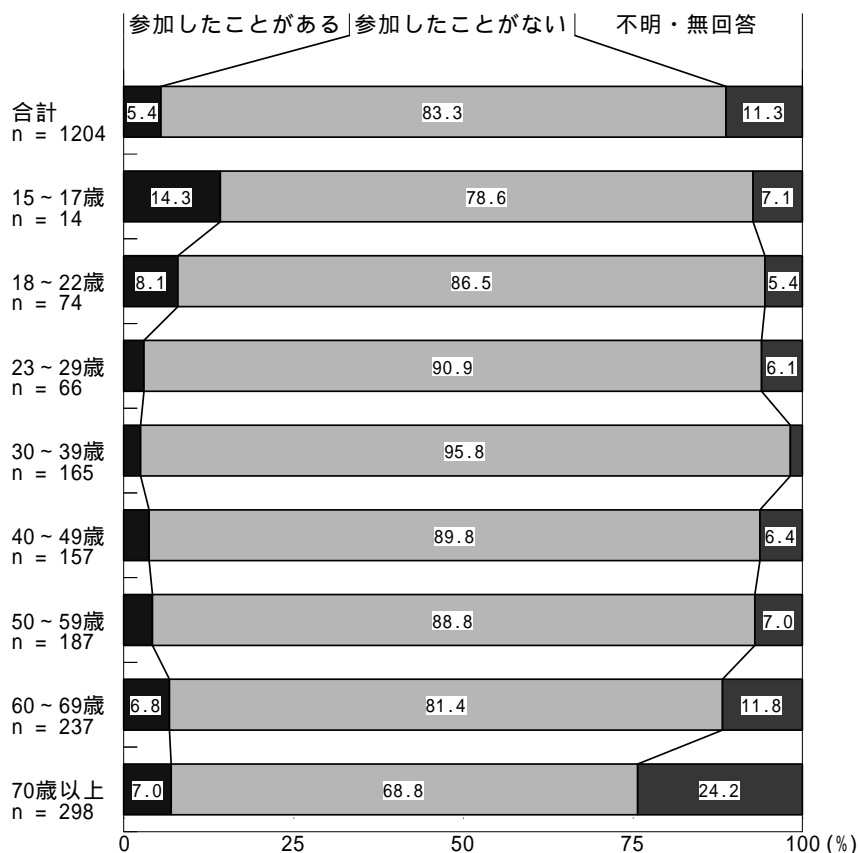
「共同募金」が多い

現状の傾向

徳島市社会福祉協議会が行っている事業への参加有無をたずねたところ、「共同募金」が41.7%で最も多くなっています。全体的に「参加したことがない」が多くなっており、関係機関と連携した啓発活動を行う必要が伺えます。



ボランティアへの参加（年代・地区別）



問26-3-イ ボランティアへの参加 × 問2 年齢

「参加したことがない」割合が高い

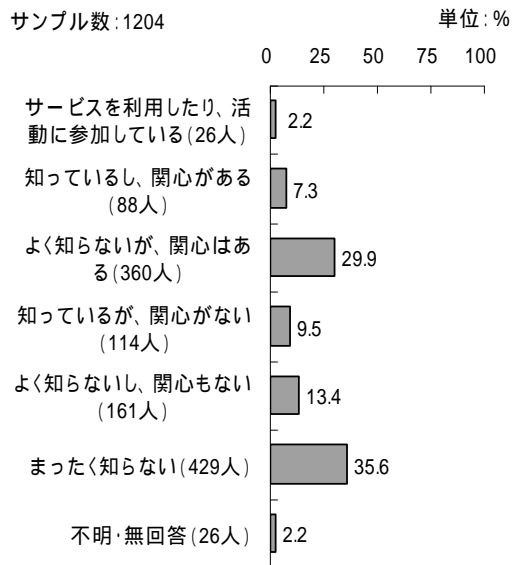
年齢別にみると、「参加したことがある」の割合については、「15～17歳」が14.3%で最も高くなっています。一方、「参加したことがない」の割合については、「30～39歳」が95.8%で最も高くなっています。

問 27 あなたは、地区社会福祉協議会という団体があることを知っていますか。(ひとつに)

「まったく知らない」が多い

現状の傾向

地区社会福祉協議会の認知度についてたずねたところ、「まったく知らない」が 35.6%で最も多く、「よく知らないが、関心はある」が 29.9%、「よく知らないし、関心もない」が 13.4%となっています。認知度は低い傾向が伺えます。

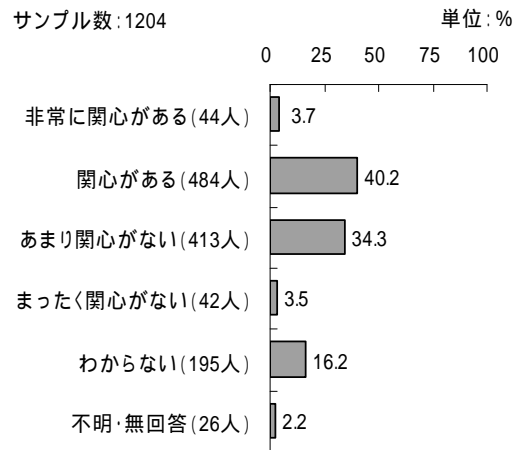


問 28 あなたは、地域福祉に関心がありますか。(ひとつに)

「関心がある」が多い

現状の傾向

地域福祉に関心があるかたずねたところ、「関心がある」が 40.2%で最も多く、「あまり関心がない」が 34.3%、「わからない」が 16.2%となっています。地域福祉に関する周知の必要が伺えます。

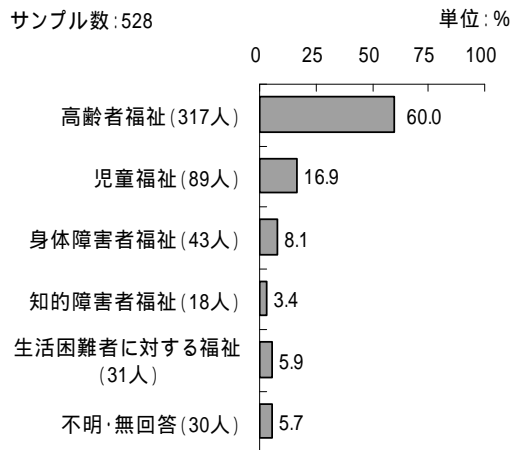


問 29 地域福祉のどの分野に関心がありますか。(ひとつに)

「高齢者福祉」が多い

現状の傾向

地域福祉に関心がある分野についてたずねたところ、「高齢者福祉」が60.0%で最も多く、次いで、「児童福祉」が16.9%となっています。「高齢者福祉」の分野についての関心が高い傾向が伺えます。

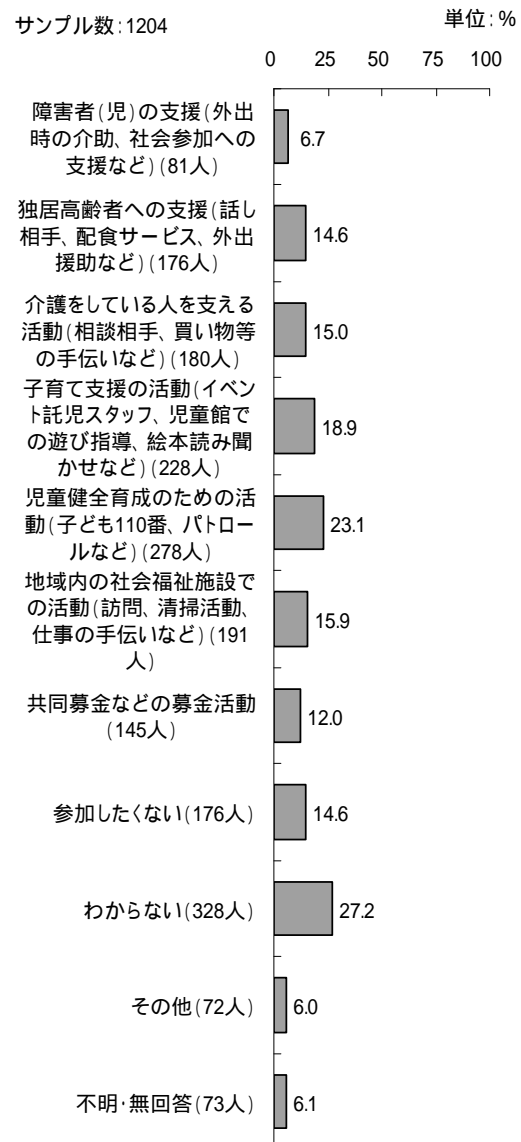


問 30 あなたは、お住まいの地域で行われる福祉活動の内、どのような活動であれば、参加してみたいと思いますか。(2つに)

「わからない」が多い

現状の傾向

お住まいの地域で行われている福祉活動の内、参加してみたいと思う活動についてたずねたところ、「わからない」が27.2%で最も多く、「児童健全育成のための活動(子ども110番、パトロールなど)」が23.1%、「子育て支援の活動(イベント託児スタッフ、児童館での遊び指導、絵本読み聞かせなど)」が18.9%となっています。子育て等の活動に参加したいと思う方が多い傾向が伺えます。

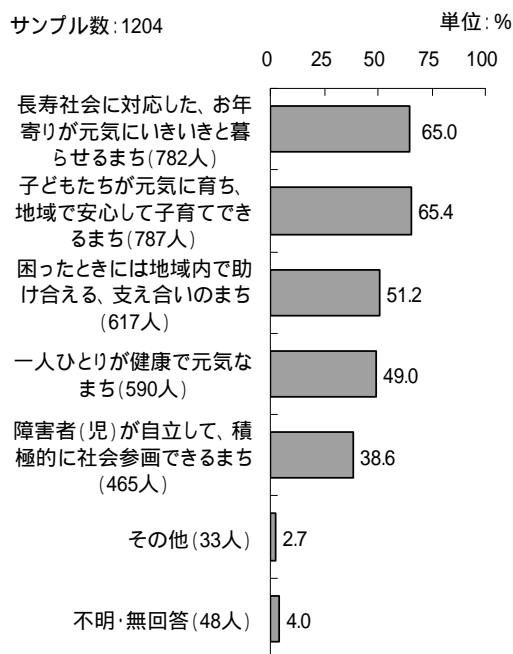


問 31 将来、徳島市は福祉に関してどのようなまちになって欲しいですか。(あてはまるものすべてに)

「子どもたちが元気に育ち、地域で安心して子育てできるまち」が多い

現状の傾向

将来、徳島市は福祉に関してどのようなまちになって欲しいかたずねたところ、「子どもたちが元気に育ち、地域で安心して子育てできるまち」が65.4%で最も多く、次いで、「長寿社会に対応した、お年寄りが元気にいきいきと暮らせるまち」が65.0%、「困ったときには地域内で助け合える、支え合いのまち」が51.2%となっています。子育て・子育てやお年寄りにやさしいまち、地域内で助け合えるまちになってほしいと思う方が多い傾向が伺えます。

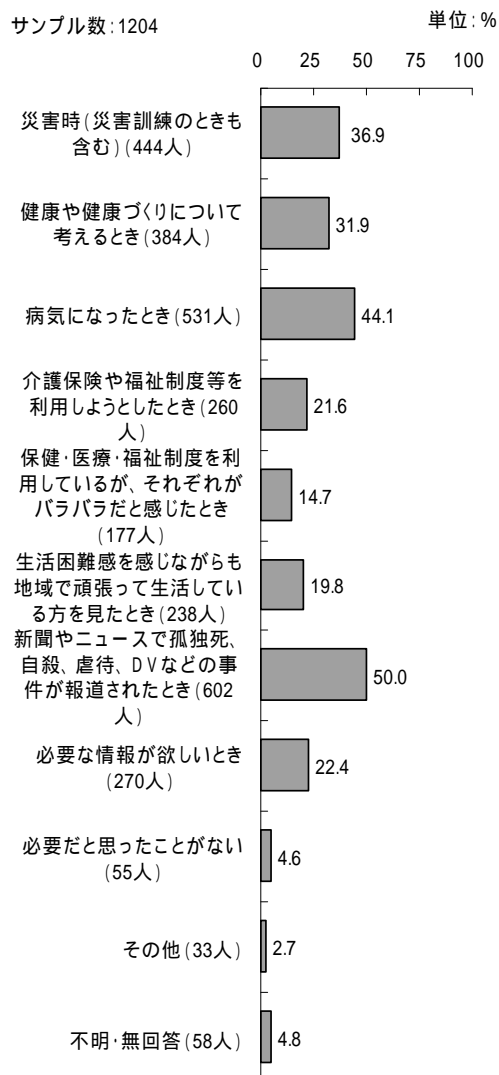


問 32 住みよいまちづくりを行うため、保護・医療福祉の連携が必要だといわれています。あなたは、今までに、どのようなときにそう思いましたか。(3つに)

「新聞やニュースで孤独死、自殺、虐待、DVなどの事件が報道されたとき」が多い

現状の傾向

住みよいまちづくりを行うための保護・医療福祉の連携がいつ必要かたずねたところ、「新聞やニュースで孤独死、自殺、虐待、DVなどの事件が報道されたとき」が50.0%で最も多く、次いで、「病気になったとき」が44.1%、「災害時(災害訓練のときも含む)」が36.9%となっています。新聞やニュースなどの報道、病気、災害時に必要だと思う方が多い傾向が伺えます。



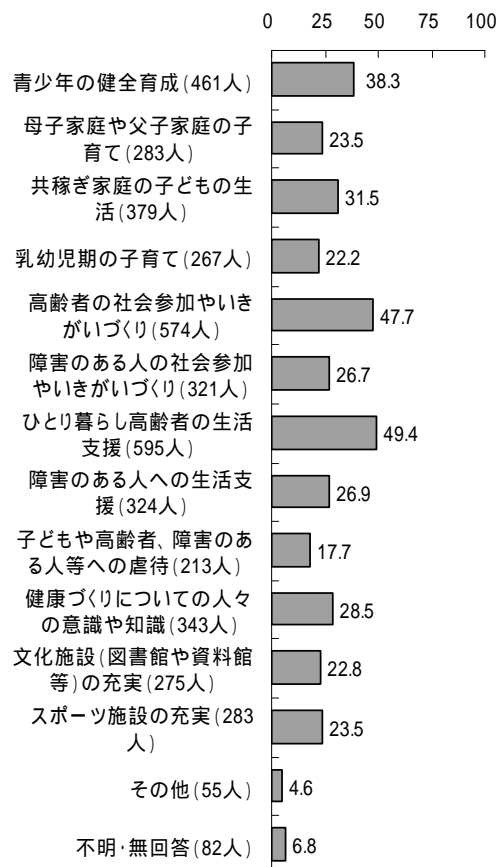
問 33 お住まいの地域には、地域住民が取り組むべき課題や問題としてどのようなことがあると思いますか。(あてはまるものすべてに)

「ひとり暮らし高齢者の生活支援」が多い

現状の傾向

居住地域における、地域住民が取り組むべき課題や問題はどのようなことかについてたずねたところ、「ひとり暮らし高齢者の生活支援」が49.4%で最も多く、次いで、「高齢者の社会参加やいきがづくり」が47.7%、「青少年の健全育成」が38.3%となっています。高齢者への支援や青少年の健全育成が課題だと考えている方が多いことが伺えます。

サンプル数：1204 単位：%



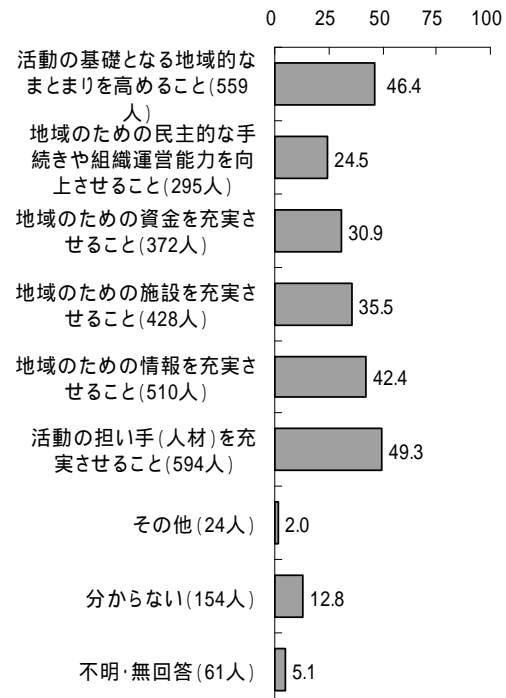
問 34 地域住民が取り組むべき課題や問題に対する改善方法があるとなれば、それはなんだと思いますか。(あてはまるものすべてに)

「活動の担い手(人材)を充実させること」が多い

現状の傾向

地域住民が取り組むべき課題や問題に対する改善方法についてたずねたところ、「活動の担い手(人材)を充実させること」が49.3%で最も多く、次いで、「活動の基礎となる地域的なまとまりを高めること」が46.4%、「地域のための情報を充実させること」が42.4%となっています。人材を充実させることや情報提供の充実が必要と考えている方が多いことが伺えます。

サンプル数：1204 単位：%

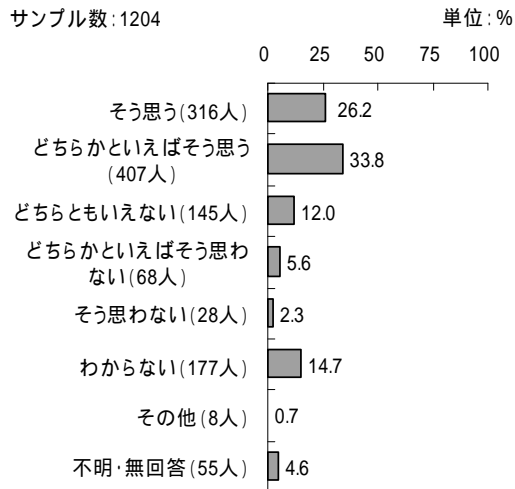


問 35 地域において発生する多様な福祉ニーズにきめ細かく対応していくためには、今後、住民参加による福祉活動を推進していくことが必要であるとの考え方がありますが、あなたは、どう思いますか。
(ひとつに)

「どちらかといえばそう思う」が多い

現状の傾向

住民参加による福祉活動を推進していく必要であるとの考え方についてどう思うかたずねたところ、「どちらかといえばそう思う」が 33.8%で最も多く、次いで、「そう思う」が 26.2%、「わからない」が 14.7%となっています。必要だと思ふ傾向が高いことが伺えます。

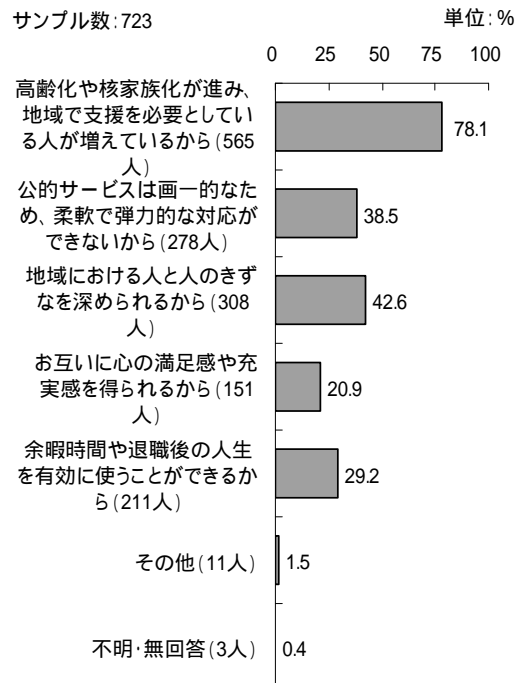


問 36 住民参加による福祉活動を推進していく必要があると思うのはなぜか。(あてはまるものすべてに)

「高齢化や核家族化が進み、地域で支援を必要としている人が増えているから」が多い

現状の傾向

住民参加による福祉活動を推進していく必要があると思う理由についてたずねたところ、「高齢化や核家族化が進み、地域で支援を必要としている人が増えているから」が 78.1%で最も多く、次いで、「地域における人と人のきずなを深められるから」が 42.6%、「公的サービスは画一的なため、柔軟で弾力的な対応ができないから」が 38.5%となっています。地域で支援を必要としている方が多い傾向が伺えます。

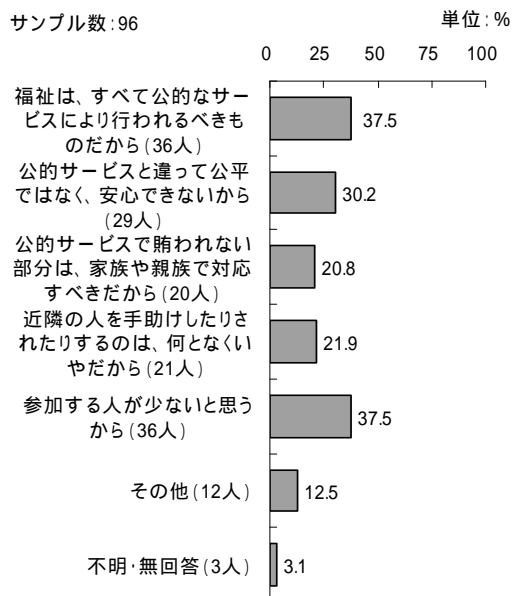


問 37 住民参加による福祉活動を推進していく必要がないと思うのはなぜか。(あてはまるものすべてに)

「福祉は、すべて公的なサービスにより行われるべきものだから」、「参加する人が少ないと思うから」が多い

現状の傾向

住民参加による福祉活動を推進していく必要がないと思う理由についてたずねたところ、「福祉は、すべて公的なサービスにより行われるべきものだから」、「参加する人が少ないと思うから」がともに 37.5%で最も多く、次いで、「公的サービスと違って公平ではなく、安心できないから」が 30.2%、「近隣の人を手助けしたりされたりするのは、何となくいやだから」が 21.9%となっています。



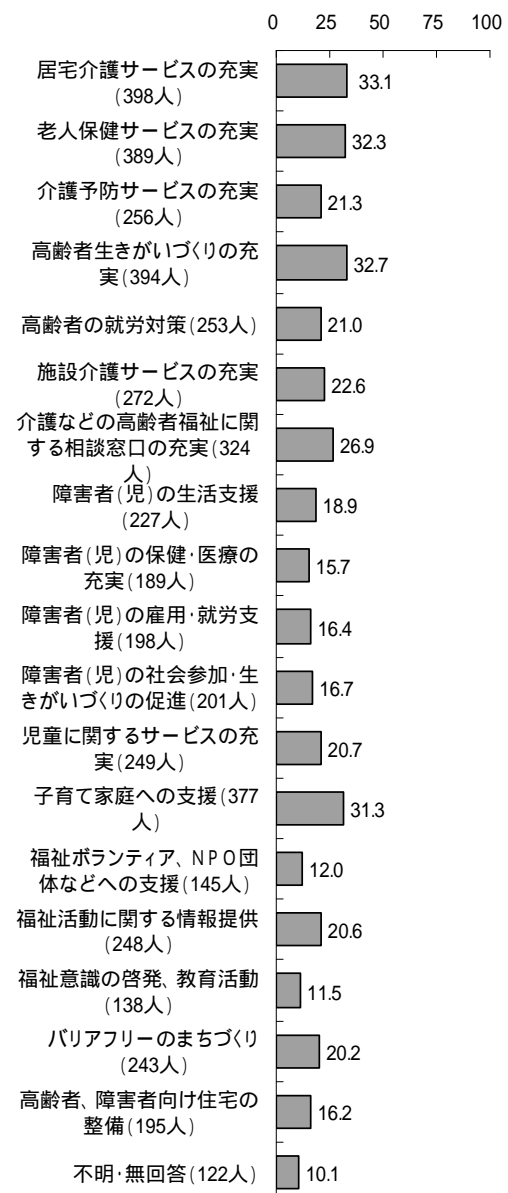
問 38 徳島市の福祉施策のうち、どの活動に関心がありますか。(あてはまるものすべてに)

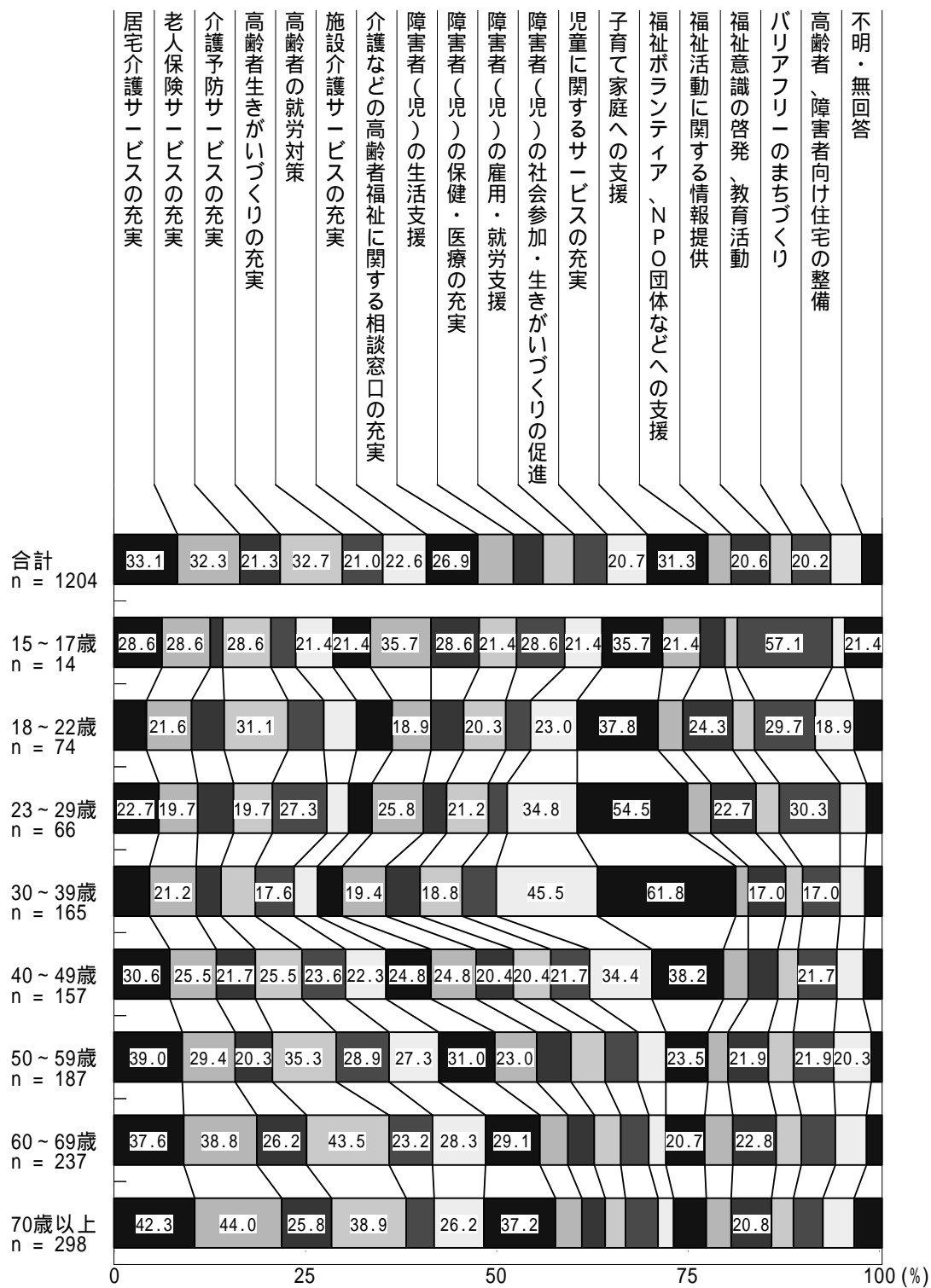
「居宅介護サービスの充実」が多い

現状の傾向

徳島市の福祉施策のうち、どの活動に関心があるかについてたずねたところ、「居宅介護サービスの充実」が 33.1%で最も多く、次いで、「高齢者生きがいの充実」が 32.7%、「老人保健サービスの充実」が 32.3%となっています。介護保険サービスの充実や高齢者の施策の充実を図る必要があることが伺えます。

サンプル数:1204 単位:%





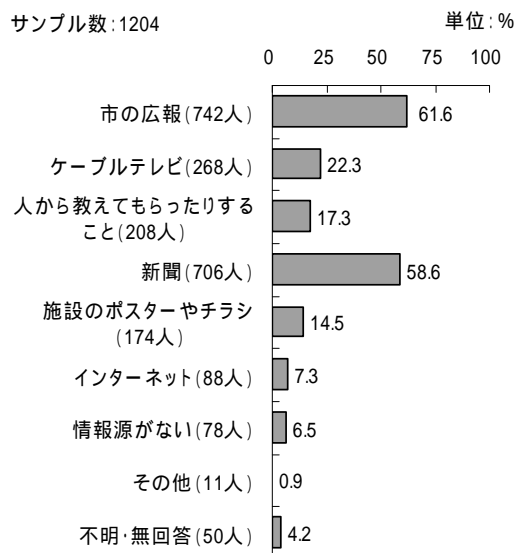
85 問38 関心のある市の福祉施策 × 3 問2 年齢

問 39 徳島市の行事の情報源は何で知りますか。(あてはまるものすべてに)

「市の広報」が多い

現状の傾向

徳島市の行事の情報源は何かについてたずねたところ、「市の広報」が61.6%で最も多く、次いで、「新聞」が58.6%、「ケーブルテレビ」が22.3%となっています。市の広報や新聞等から情報を得ている方が多い傾向が伺えます。

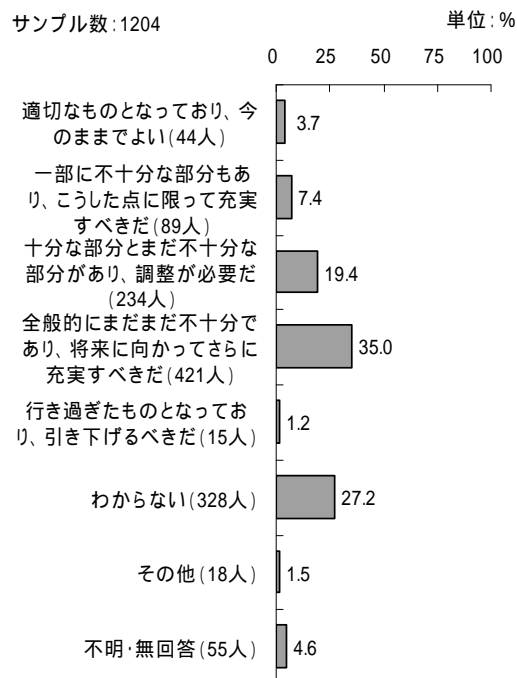


問 40 あなたは、現在の高齢者、障害者や保育などに対して行政が行うサービス(公的福祉サービス)の水準についてどのように思いますか。(ひとつに)

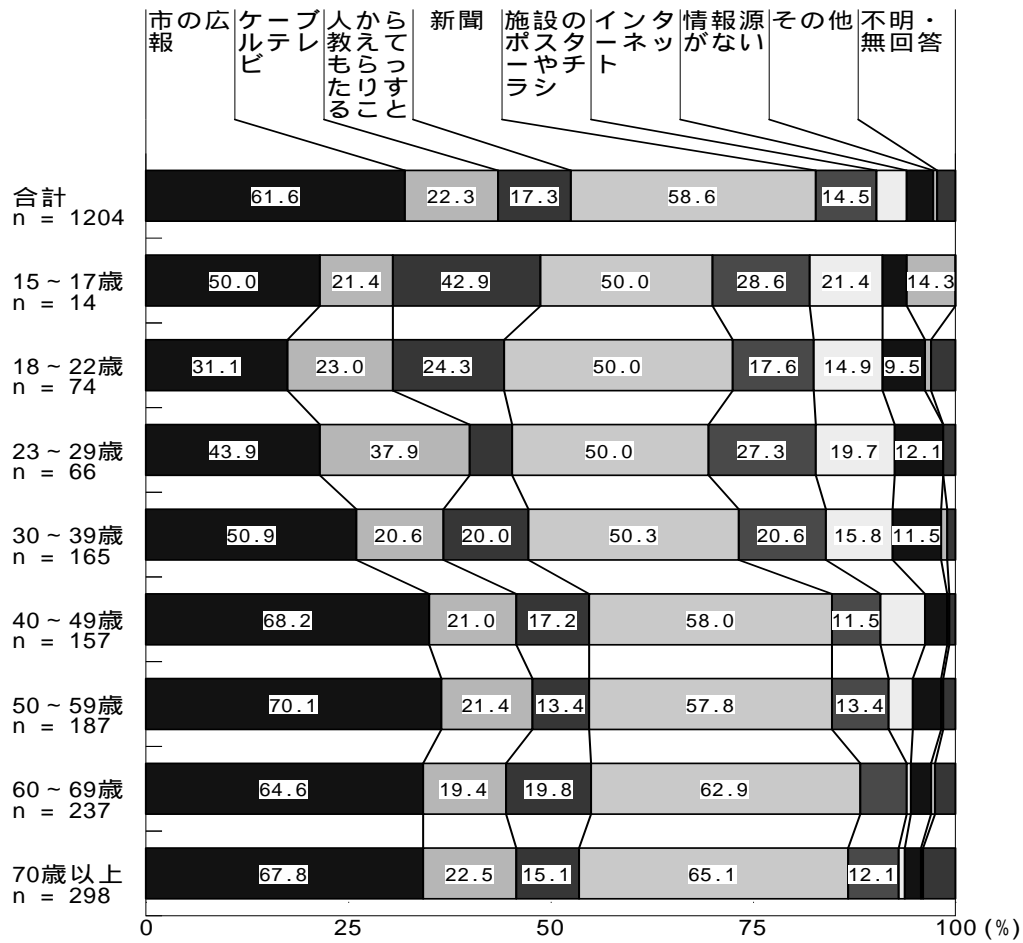
「全般的にまだまだ不十分であり、将来に向かってさらに充実すべきだ」が多い

現状の傾向

現在の高齢者、障害者や保育などに対して行政が行うサービスの水準についてどのように思っているかたずねたところ、「全般的にまだまだ不十分な部分があり、調整が必要だ」が35.0%で最も多く、次いで、「わからない」が27.2%、「十分な部分とまだ不十分な部分があり、調整が必要だ」が19.4%となっています。



市の行事の情報入手先（年代・地区別）



問39 市の行事の情報入手先 × 問2 年齢

年齢が上がるにつれて「市の広報」の割合が高い

年代別に見ると、「市の広報」が「50～59歳」が70.1%と最も高く、概ね年齢が上がるにつれて割合が高くなっています。